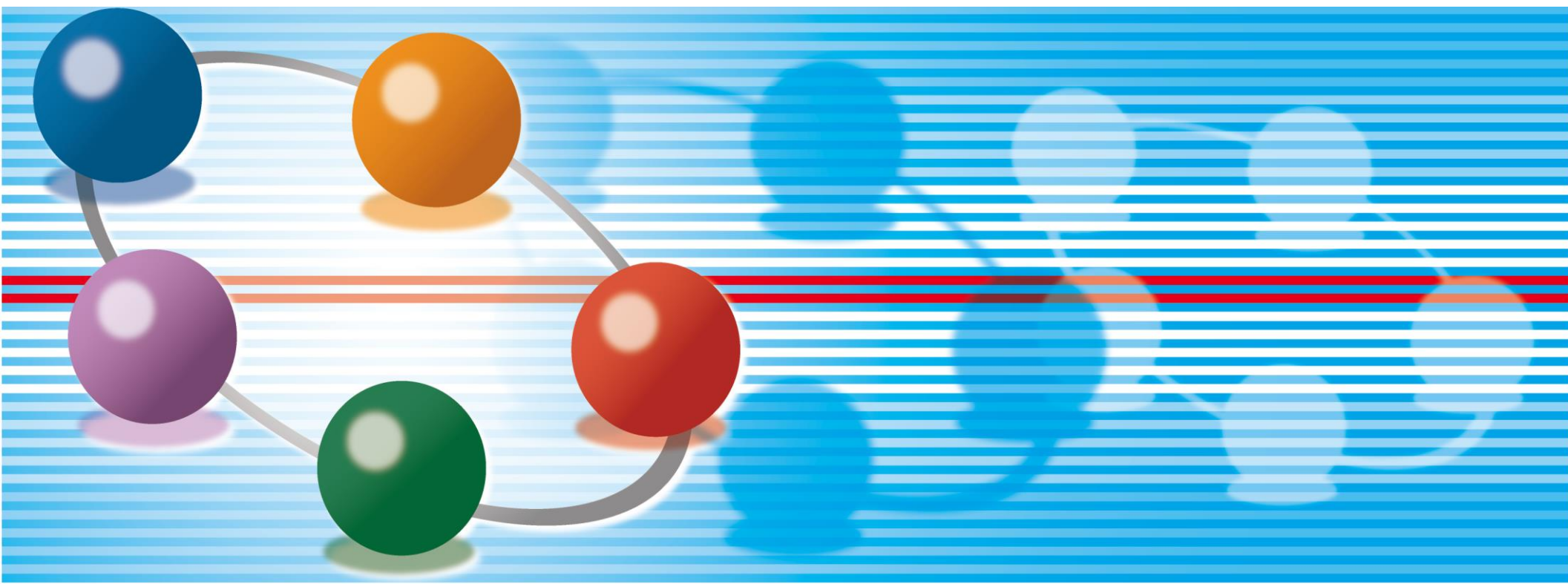




**株式会社カワタ**  
**2019年3月期第2四半期 決算説明会資料**  
**2018年11月22日**

(証券コード 6292 東証第1部)



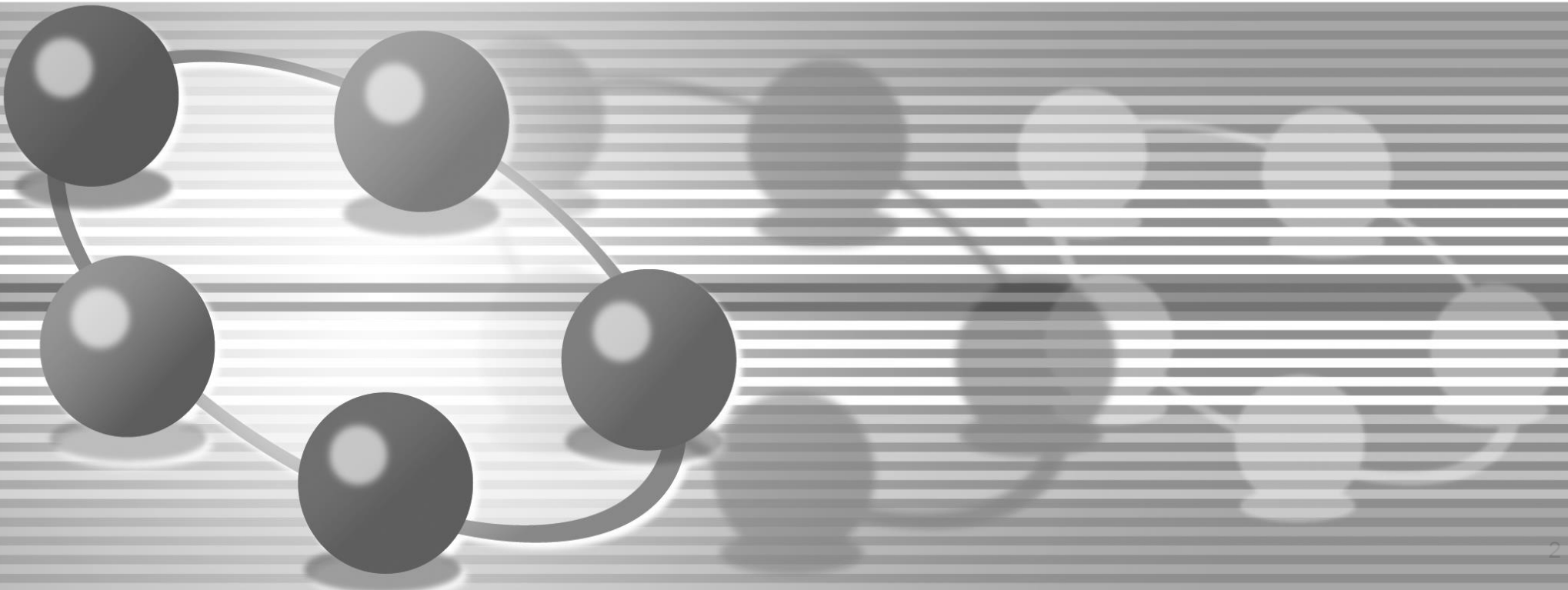
# 目次

---

I . 会社概要	.....	2
II . 決算実績・業績予想	.....	11
III . 経営戦略	.....	26
Appendix. I	.....	36
Appendix. II	.....	41



# I. 会社概要



# 1. 会社概要

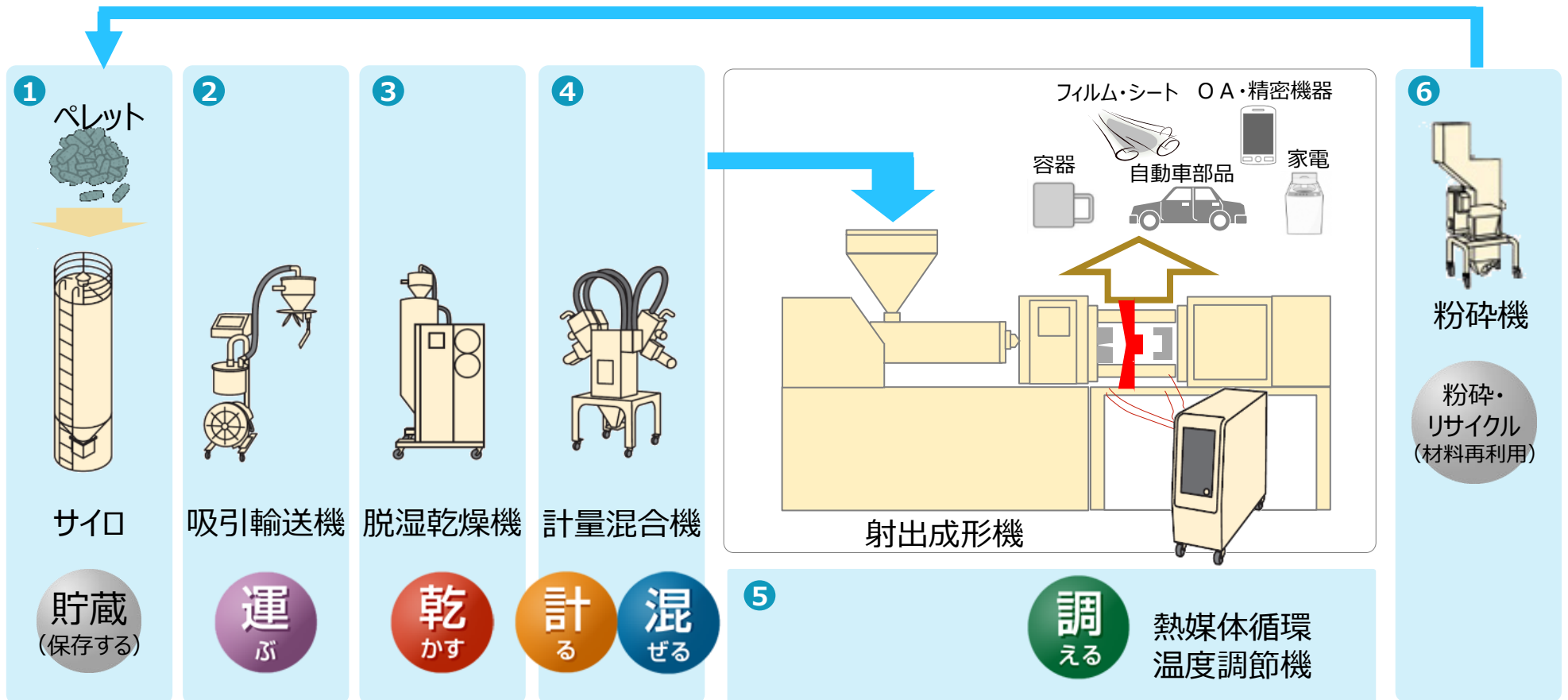
会社名	株式会社 カワタ	KAWATA MFG. CO.,LTD.
本社	大阪市西区阿波座1丁目15番15号（第一協業ビル）	
創業	1935年9月10日	
設立	1951年7月13日	
事業内容	プラスチック成形機周辺装置等のプラスチック製造機器の製造、販売及びこれに関連するシステムエンジニアリングその他のサービス	
代表者	白井 英徳	
売上高	20,336百万円（2018年3月期、連結）	
経常利益	1,029百万円（ " ）	
（親会社）当期純利益	909百万円（ " ）	
資本金	977百万円（2018年3月末現在）	
従業員数	808名（2018年3月期、連結）	
子会社数	16社（国内4社、海外12社） （2018年3月末現在）	



三田（さんだ）工場（兵庫県）

## 2. 事業内容：プラスチックを主とする製品製造工程の概要

- 事業内容：プラスチック成形機周辺装置等のプラスチック製造機器の製造、販売及びこれに関連するシステムエンジニアリングその他のサービス
- 5つのコア技術（運ぶ・乾かす・計る・混ぜる・調える）をもとにプラスチック製品製造における成形加工工程（主に原料供給工程）をシステムにて提供



# 2. 事業内容：射出成形機用システム/押出成形機用システム

## 射出成形システム

貯蔵



原料貯蔵装置  
サイロ

輸送



吸引輸送機  
オートローダー

計量・混合



質量計量混合機  
オートカラーリミテッド

乾燥



脱湿乾燥機  
チャレンジャーⅢ

温度調節

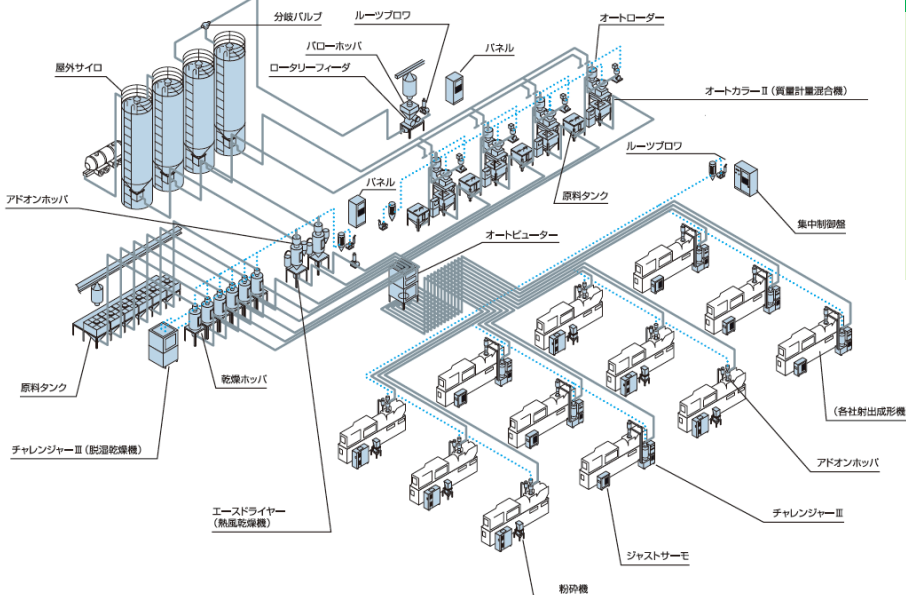


熱媒体循環温度調節機  
ジャストサーモ

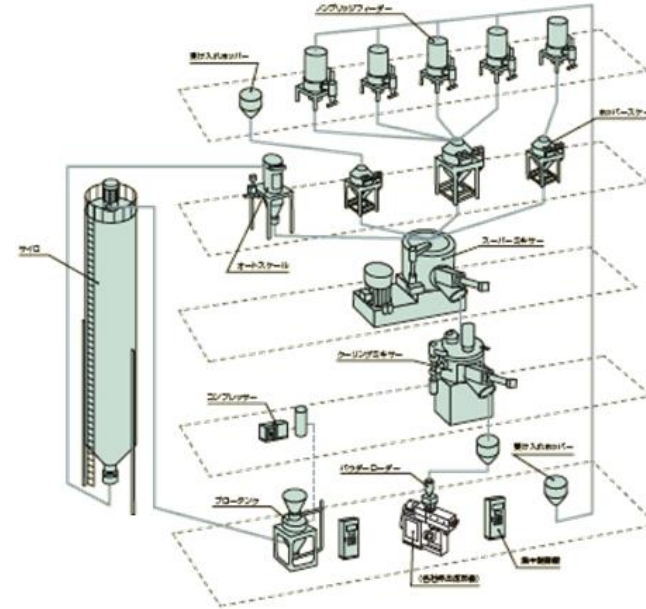
粉砕



低速粉砕機  
Gマスター



## 押出成形システム



貯蔵



原料貯蔵装置  
サイロ

輸送・計量



粉粒体輸送計量機  
オートスケール

計量



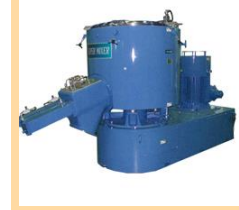
粉粒体計量機  
キッパースケール

計量



粉粒体供給機  
ノンブリッジフィーダー

混合



高速流動混合機  
スーパーミキサー

混合 (冷却)



冷却混合機  
クーリングミキサー

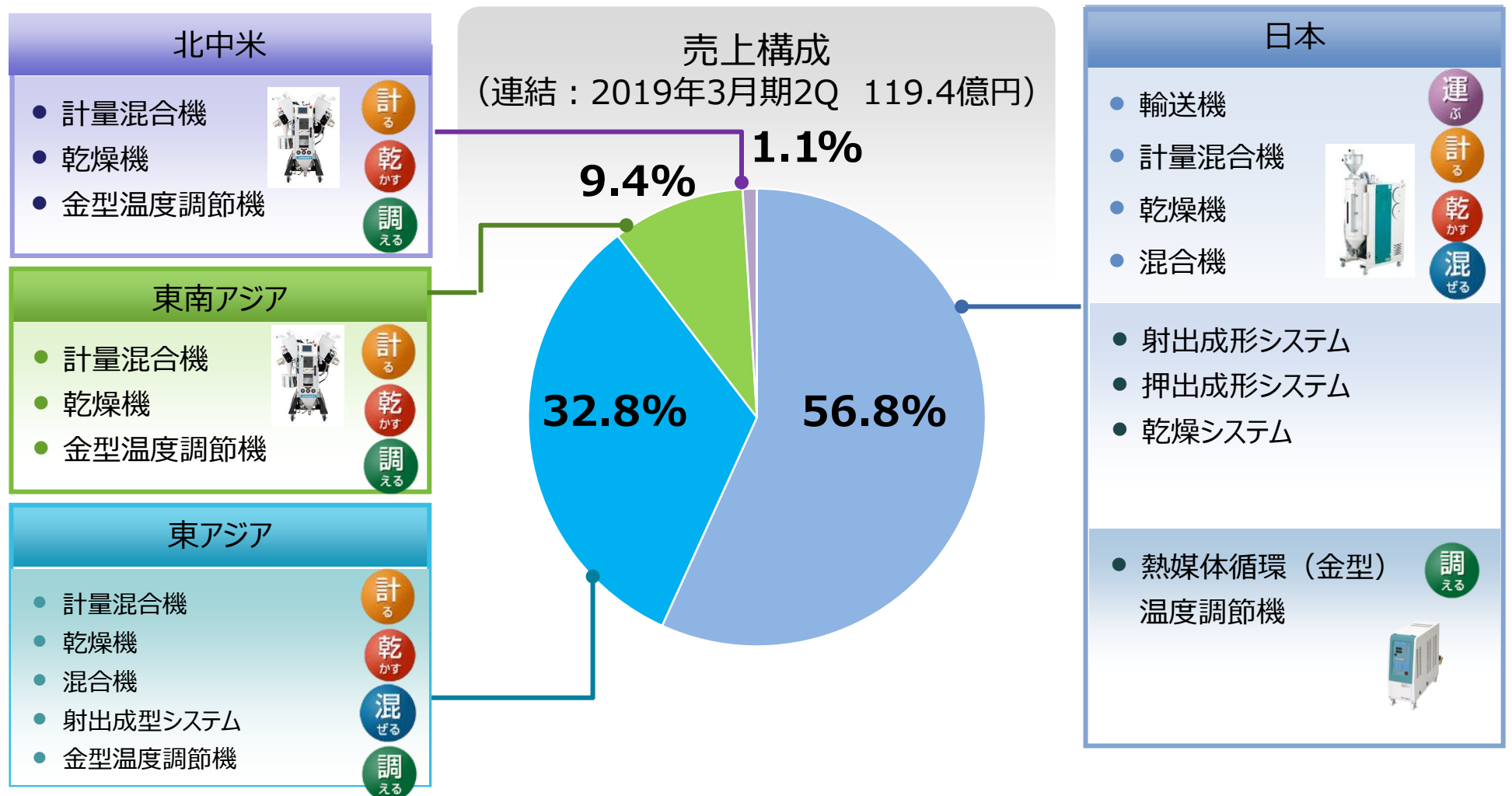
温度調節



熱媒体循環温度調節機  
ジャストサーモ

### 3. 売上構成

- 日本国内では自動車、フィルム・シート関連業界を中心とした需要の増加により、計量混合機、乾燥機、押出成形システム、熱媒体循環温度調節機が好調
- 東アジアでは中国における自動車、電子部品関連業界の設備投資の増加により、乾燥機、混合機、金型温度調節機が好調
- 東南アジアでは自動車関連業界を中心として緩やかではあるが回復基調にあり、乾燥機、金型温度調節機が好調
- 北中米では自動車関連業界を中心に需要の増加が期待でき、乾燥機、金型温度調節機が好調に推移すると予想



# 4. 生産・販売・サービス体制

● 世界4極体制によりグローバル最適な販売・供給・サービス体制を整備

中国



- 日系企業～ローカル企業向け製品を開発、販売シェア拡大
- 電池業界向け製品の開発・販売

日本



- 自動車部品業界向け戦略製品を投入
- 容器・ペットボトル業界シェアアップ

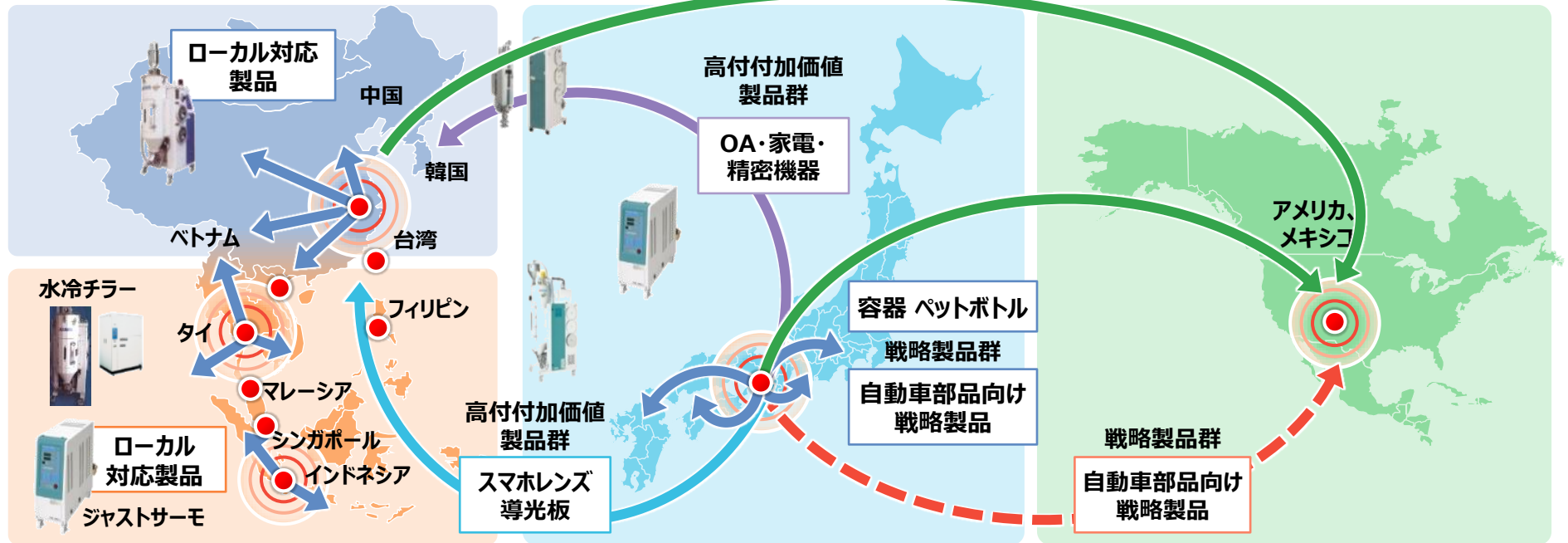
北中米



- 自動車部品業界向け戦略製品を投入
- 自動車部品製造増加に対応し、メキシコ販売法人を設立

東アジア

東南アジア



北中米

東南アジア



- タイ・インドネシア工場の製品を安定供給、販売・サービス網の整備による販売の拡大

台湾／韓国



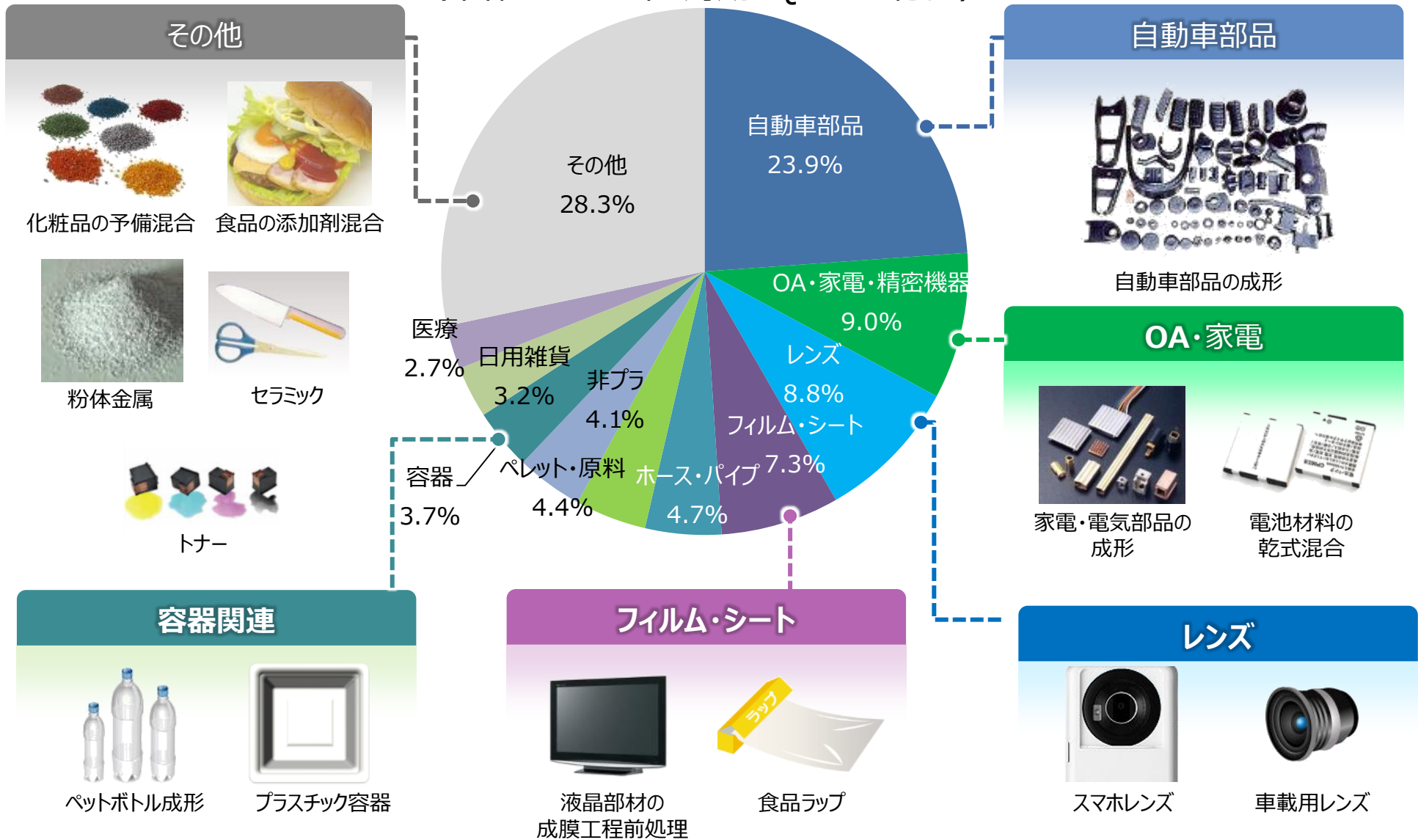
- 日本から台湾・韓国へスマホレンズ・導光板、OA・家電・精密機器向け高付加価値製品の販売を拡大



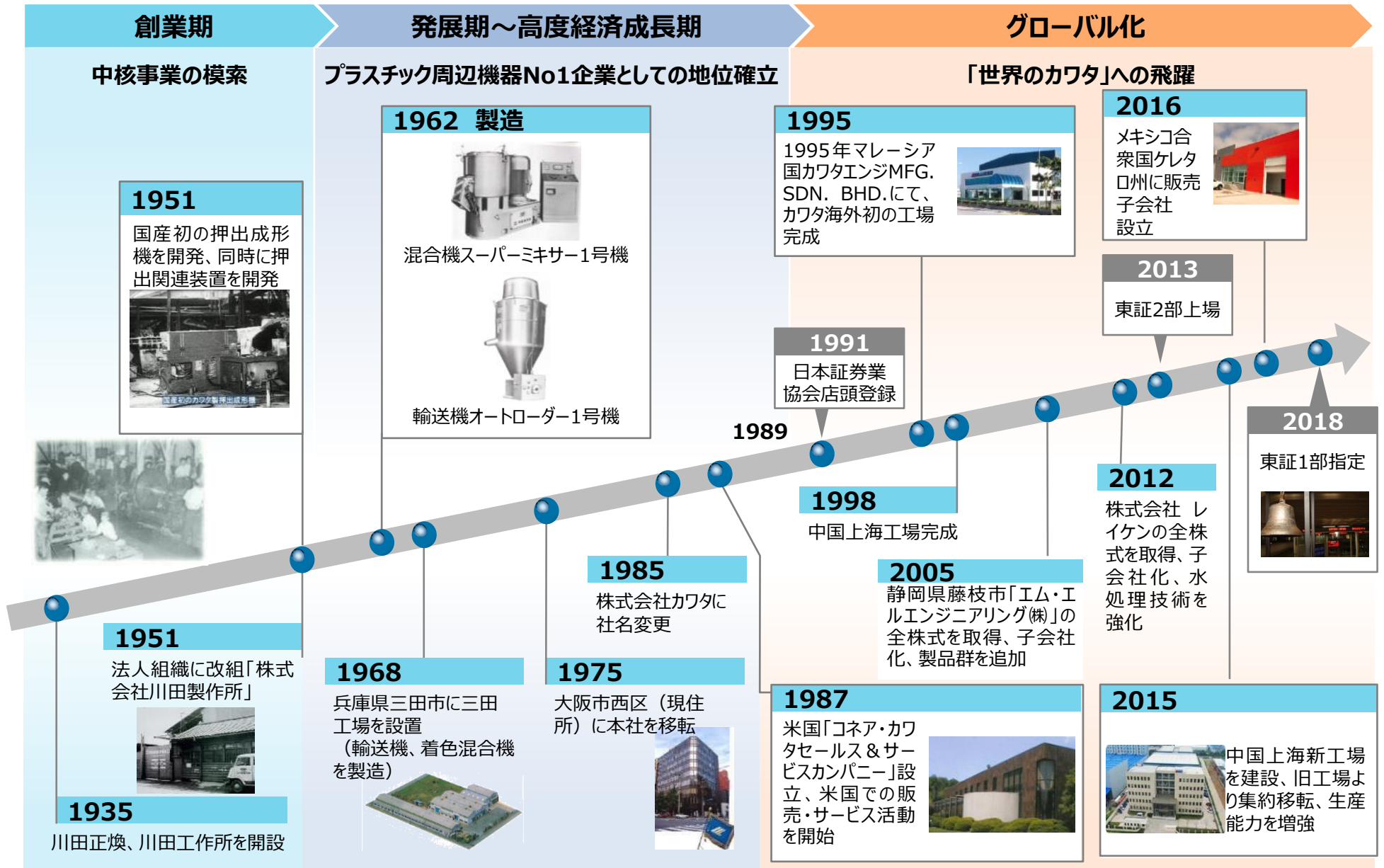
# 5. 主な販売業界（単体）

## 販売先別売上構成

(単体：2019年3月期2Q 56.1億円)



# 6. 会社沿革



# 7. カワタグループ概要

- 国内外に16社の子会社



金型温度調節機器、水関連機器



株式会社レイケン



株式会社サーモテック

水関連機器

株式会社カンゲン

プラスチック製品製造機器の製造、  
販売・サービス

エム・エルエンジニアリング株式会社



プラスチック製品製造機器



川田機械製造（上海） 有限公司

川田機械香港有限公司

金型温度調節機器、水関連機器

冷研（上海） 貿易有限公司



プラスチック製品製造機器

川田国際股份有限公司（台湾）



カワタパシフィックPTE. LTD.（シンガポール）  
プラスチック製品製造機器の販売及びサービス業務



カワタタイランドCO., LTD.  
プラスチック製品製造機器の販売及びサービス業務  
レイケンタイランドCO., LTD.  
水関連機器の製造及び販売



カワタマーケティングSDN.BHD.（マレーシア）  
プラスチック製品製造機器の販売及びサービス業務



PT.カワタインドネシア  
プラスチック製品製造機器の製造及び販売  
PT.カワタマーケティングインドネシア  
プラスチック製品製造機器の販売及びサービス業務



カワタU.S.A. INC.



カワタシナリーメキシコ S.A. DE C.V.



## Ⅱ. 決算実績・業績予想



## 1. 決算概要総括

### ① 売上・利益の概要

#### 市場環境

##### 国内

- 生産や設備投資は緩やかに回復。企業収益や業況判断も改善が継続。足元の機械受注統計も製造業は増加傾向

##### 海外

- 先進国は緩やかな回復傾向ながらも、米国の自国第一主義や英国のEU離脱問題等による下振れ懸念が顕在化
- 新興国の経済成長は、従来の拡大テンポが緩やかに  
また、紛争やテロ等の地政学的リスクが継続

#### 売上面

連結売上高  
11,948百万円  
(前年比+32.6%)

##### 国内

- 国内のプラスチック関連の製造業の設備投資が回復基調。海外向けの電子部品関連の輸出案件も好調

##### 海外

- 中国において自動車関連、電子部品関連の設備投資意欲が回復。台湾の電子部品関連も回復傾向
- フィリピン、ベトナムは好調を維持。インドネシア、タイは、総じて緩やかな回復傾向

#### 利益面（費用面）

- 売上高増加に伴う売上総利益の増加等により、営業利益、経常利益、（親会社）当期純利益ともに増益を達成

営業利益  
1,182百万円  
(前年比+188.7%)

- 売上高の増加、売上総利益率の改善（29.2→31.1%）により、売上総利益が前年同期比1,087百万円増加
- 売上高増加に伴う運賃・梱包費の増加および国内、海外における人件費の増加（賃金改定、賞与の増加）等により、販売費および一般管理費は前年同期比314百万円増加

（親会社）当期純利益  
870百万円  
(前年比+307.3%)

- 営業外損益全体+32百万円（前年同期△29百万円）、特別損益全体△1百万円（前年同期△0百万円）
- 法人税等合計332百万円（前年同期164百万円）

## 1. 決算概要総括

# ② 経営成績、その他に関する分析等

## 経営成績、その他に関する分析等

### 地域別状況

- 日本： 自動車関連、電子部品関連に加えて、食品容器、物流関連、建築土木関連等、さまざまな分野で投資案件増加
- 中国： 電気自動車（EV）向けの電池や、スマホや車載用のカメラレンズ等の光学系部品関連投資が堅調に推移  
→ 米中、日米の貿易摩擦の影響、EV関連投資の一巡等により、日本セグメント、東アジアセグメントにおける急拡大は、今後一旦緩やかになると予想
- 東南アジア： フィリピン、ベトナムでは日系企業の投資案件が好調。インドネシア、タイも、自動車販売をはじめ総じて景気は回復傾向
- 北中米： アメリカ経済は好調維持。メキシコにおける自動車を中心とした日系企業の投資意欲も堅調  
→ 東南アジア、北中米セグメントでは、中長期的には業容拡大に期待大であるが、当面は米中、日米の貿易摩擦が懸念される

### 利益の状況

- 足元では、鋼材等の素材価格や運賃の上昇、海外における人件費の増加等の懸念はあるが、受注増に伴う生産や販売量の増加と販売価格への転嫁等により吸収を図る

### キャッシュフローの状況

- 前年度においては、受注高、売上高が急増し、経常運転資金（売上債権＋棚卸資産－仕入債務）も大幅に増加したが、当年度2Qにおいては、前年度に計上した売上債権の回収も進み、営業キャッシュフローは＋1,116百万円となった
- 上記に伴い、有利子負債が減少（主に短期借入金）した。今後も、棚卸資産の削減、売掛金の早期回収等により、資金効率の改善を図る

### 特記事項

- 作業の効率化や外注先の能力アップによって対応しているが、案件の大型化や当社機器以外（成形機等）の納期遅れ、納入先における建物やユーティリティの建設・設置遅れにより、受注から売上げまでの期間がやや長くなるケースも発生
- 現在、EV関連（正極材、セパレータフィルム等）向けの出荷は、連結全体の約1～2割程度と推定している。車載用リチウム電池は2020年半ばにかけて拡大が見込まれるが、生産設備に対する投資には何回かの波が発生するものと思われる
- 海洋プラスチックや地球温暖化等の環境問題、IoTやAI等の情報化社会の進展に対応するため、製造・開発部門の更なる強化を図る

### 株主還元／投資方針

- 当社は、安定的な配当維持に加えて業績に連動した株主の皆様への配当（利益還元）を図っている。現時点では具体的な予定は無いが、新規事業投資や海外展開、大型の設備投資やM&A等の戦略投資には、今後も積極的な投資を実施していく予定

## 2. 2019年3月期第2四半期決算実績

### ①損益計算書（P/L）（連結）

（単位：百万円、％）

	実績						コメント
	2018年3月期第2四半期			2019年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	
売上高	9,011	100.0	14.3	11,948	100.0	32.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本、東アジアでの自動車関連、電子部品関連の堅調な推移などを背景に、北中米を除く各セグメントでの売上高増加</li> </ul>
売上総利益	2,631	29.2	12.9	3,718	31.1	41.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上高増加に伴う売上総利益の増加</li> <li>売上総利益率の改善（29.2→31.1％）</li> </ul>
販売費及び一般管理費	2,221	24.7	9.6	2,535	21.2	14.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上高増加に伴う運賃・梱包費の増加</li> <li>人件費（賃金改定、賞与）の増加</li> </ul>
営業利益	409	4.5	34.5	1,182	9.9	188.7	
経常利益	379	4.2	83.9	1,215	10.2	220.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>為替差益 1→52</li> </ul>
（親会社） 当期純利益	213	2.4	74.5	870	7.3	307.3	
減価償却費	144	-	10.7	147	-	2.4	
設備投資額	158	-	▲0.5	72	-	▲54.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018/3期2Q:インドネシア生産子会社における生産設備増強104</li> </ul>

## 2. 2019年3月期第2四半期決算実績

### ②セグメント別売上高・営業利益（連結）

（単位：百万円、％）

(売上高)	実績						コメント
	2018年3月期第2四半期			2019年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	5,962	61.2	5.3	7,387	56.8	23.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内製造業の設備投資が回復基調</li> <li>海外向けの電子部品関連の輸出案件も好調</li> </ul>
東アジア	2,642	27.1	43.6	4,260	32.8	61.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国における自動車関連、電子部品関連の設備投資意欲が堅調</li> <li>台湾の電子部品関連も回復基調</li> </ul>
東南アジア	938	9.6	25.9	1,221	9.4	30.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィリピン、ベトナムで日系企業の投資案件好調</li> <li>インドネシア、タイも総じて景気は回復基調</li> </ul>
北中米	192	2.0	▲7.5	136	1.1	▲28.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカにおける前年度末のパートナーシップ解散に伴う減少面はあるものの、メキシコでの自動車を中心とした日系企業の投資意欲は堅調</li> </ul>
(営業利益)	実績						コメント
	2018年3月期第2四半期			2019年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	386	100.5	▲15.1	795	67.7	105.5	(北中米除を除く各セグメント) <ul style="list-style-type: none"> <li>売上高増加に伴う売上総利益の増加</li> <li>日本、東南アジアでは売上総利益率も増加               <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本 : 25.5%→26.9%</li> <li>・東アジア : 32.0%→30.9%</li> <li>・東南アジア : 26.2%→31.9%</li> </ul> </li> </ul> (北中米) <ul style="list-style-type: none"> <li>パートナーシップ解散による影響はあるものの、メキシコにおける自動車関連の受注の堅調な推移を背景に、売上総利益率は大幅に改善               <ul style="list-style-type: none"> <li>・北中米 : 10.1%→31.6%</li> </ul> </li> </ul>
東アジア	68	17.9	-	296	25.3	331.7	
東南アジア	▲43	▲11.3	-	83	7.1	-	
北中米	▲27	▲7.1	-	0	0.0	-	

(注) 構成比は連結調整額を除いて算出



## 2. 2019年3月期第2四半期決算実績

### ③受注実績（連結）

（単位：百万円、％）

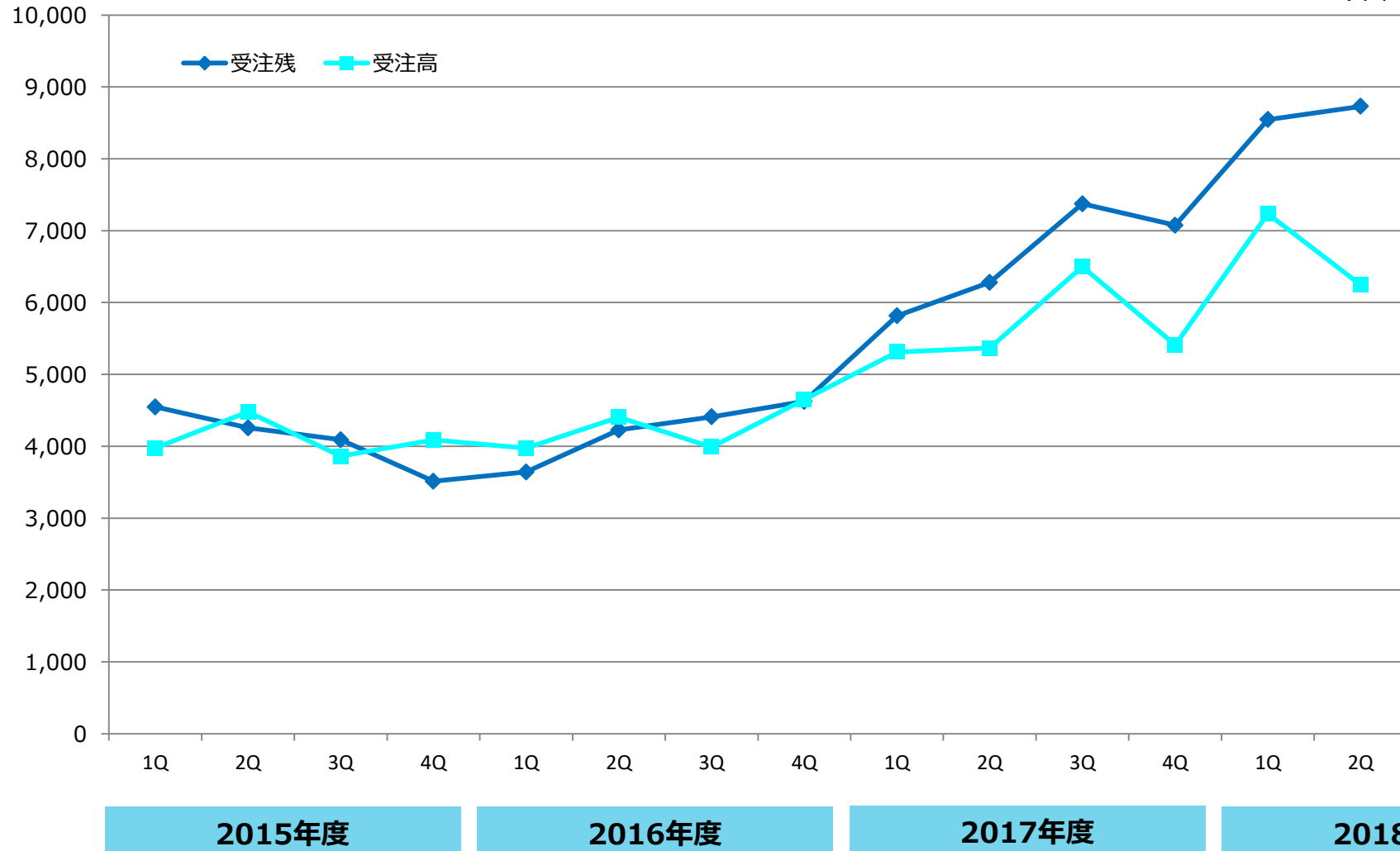
(受注高)	実績						コメント
	2018年3月期第2四半期			2019年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	6,193	58.0	11.4	7,516	55.8	21.4	■ 自動車、電子部品に加えて、食品容器、物流、建築土木関連等、さまざまな分野で投資案件が増加
東アジア	3,588	33.6	76.7	4,403	32.7	22.7	■ 電気自動車（EV）向けの電池、スマホや車載用のカメラレンズ等の光学系部品関連投資が堅調に推移
東南アジア	746	7.0	39.7	1,403	10.4	88.0	■ 自動車関連業界を中心に回復基調
北中米	149	1.4	▲41.3	156	1.2	4.3	■ 自動車関連業界における日系企業の設備投資意欲が堅調
合計	10,678	100.0	27.4	13,479	100.0	26.2	
(受注残高)	実績						コメント
	2018年3月期第2四半期			2019年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	3,522	56.1	27.7	4,814	55.1	36.7	■ 国内製造業の設備投資が堅調に推移したことによる受注増
東アジア	2,268	36.1	119.2	3,222	36.9	42.1	■ 自動車関連、電子部品関連の設備投資意欲が堅調に推移
東南アジア	455	7.2	29.6	608	7.0	33.7	■ 自動車関連業界を中心に回復基調
北中米	34	0.5	▲58.6	84	1.0	144.9	■ 自動車関連業界における日系企業の設備投資意欲が堅調
合計	6,280	100.0	48.5	8,729	100.0	39.0	

## 2. 2019年3月期第2四半期決算実績

### ④受注残・受注高の推移

- 受注残、受注高ともに前年度より大幅に増加

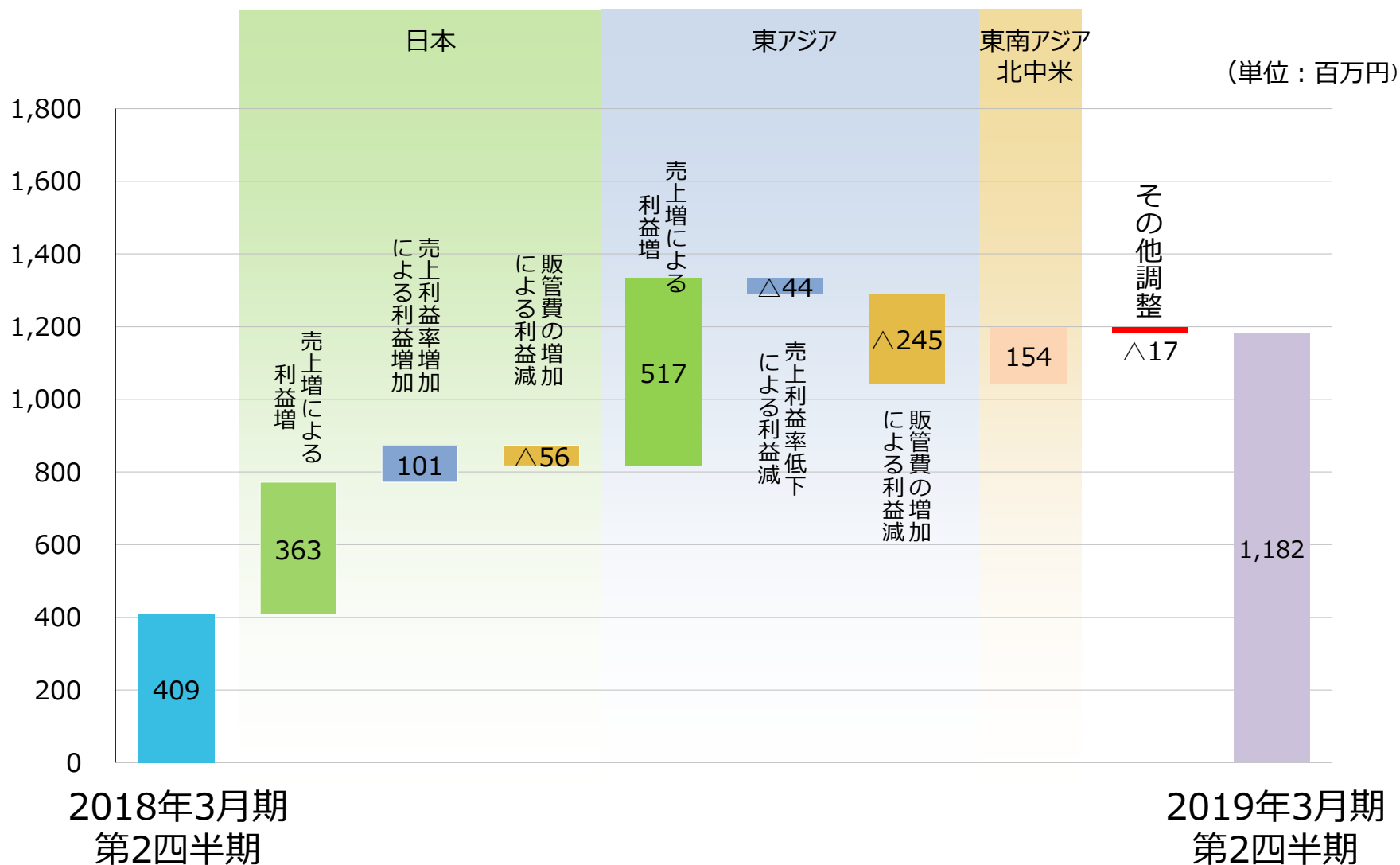
(単位：百万円)



## 2. 2019年3月期第2四半期決算実績

### ⑤ 営業利益増減要因（連結）

- 北中米を除く各セグメントでの売上増加により大幅な営業利益増を達成。売上総利益率については、東アジアにおいて若干低下したものの、他のセグメントおよび連結全体としては増加



## 2. 2019年3月期第2四半期決算実績

### ⑥貸借対照表（B/S）（連結）

（単位：百万円）

	2018年3月期	2019年3月期 第2四半期	増減額	コメント
流動資産	16,259 (16,518)	16,749	489	
現金及び預金	4,395	4,769	373	■ 前年度に計上した売上債権の回収による 手元預金の増加
受取手形及び売掛金	8,141	7,782	▲359	
たな卸資産	3,376	3,780	403	■ 主に受注の増加によるもの
固定資産	5,786 (5,692)	5,643	▲143	
有形固定資産	4,454	4,309	▲144	
無形固定資産	400	379	▲20	
投資その他の資産	931 (837)	954	22	
資産合計	22,046 (22,210)	22,392	346	
	2018年3月期	2019年3月期 第2四半期	増減額	コメント
負債合計	13,380 (13,544)	13,134	▲245	■ 主に短期借入金の減少によるもの
（有利子負債残高）	6,530	6,005	▲525	■ 同上
純資産合計	8,665	9,258	592	■ （親会社）当期純利益 870 ■ 為替換算調整勘定 390→200
負債純資産合計	22,046 (22,210)	22,392	346	

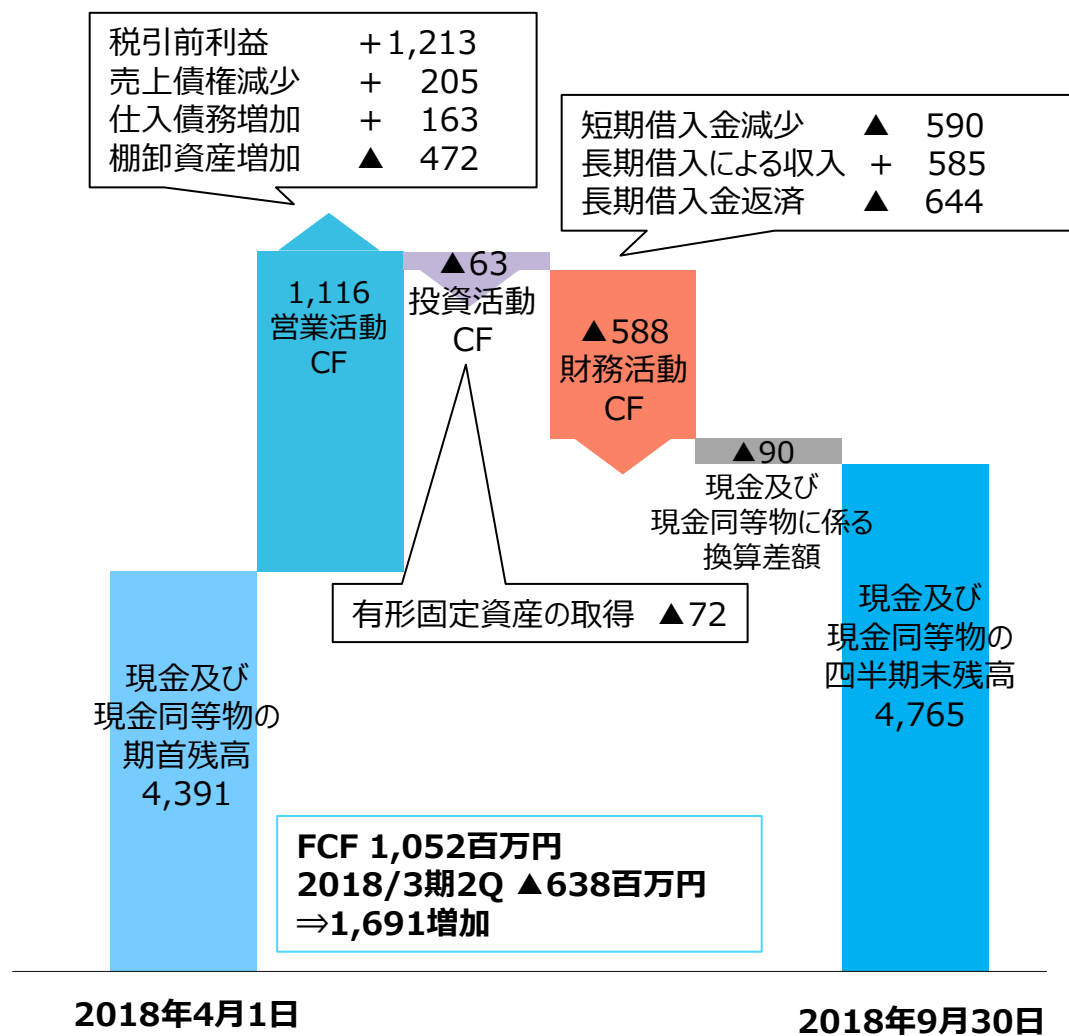
（注）「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用により、前年度の数値は、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっており、増減額は当該数値との増減額となっております。なお、適用前の数値は（ ）書にて記載しております。

## 2. 2019年3月期第2四半期決算実績

### ⑦キャッシュフローの増減（連結）

- フリー・キャッシュフローは2018年3月期第2四半期の▲638百万円から1,691百万円増加

	2018年 3月期 第2四半期	2019年 3月期 第2四半期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	▲455	1,116	1,571
投資活動による キャッシュ・フロー	▲183	▲63	120
財務活動による キャッシュ・フロー	358	▲588	▲947
現金及び現金同等 物に係る換算差額	▲16	▲90	▲73
現金及び現金同等 物の増減額	▲296	373	670
現金及び現金同等 物の期首残高	4,213	4,391	177
現金及び現金同等 物の四半期末残高	3,916	4,765	848



### 3. 2019年3月期業績予想

## ① 連結業績推移

2019年  
3月期  
予想

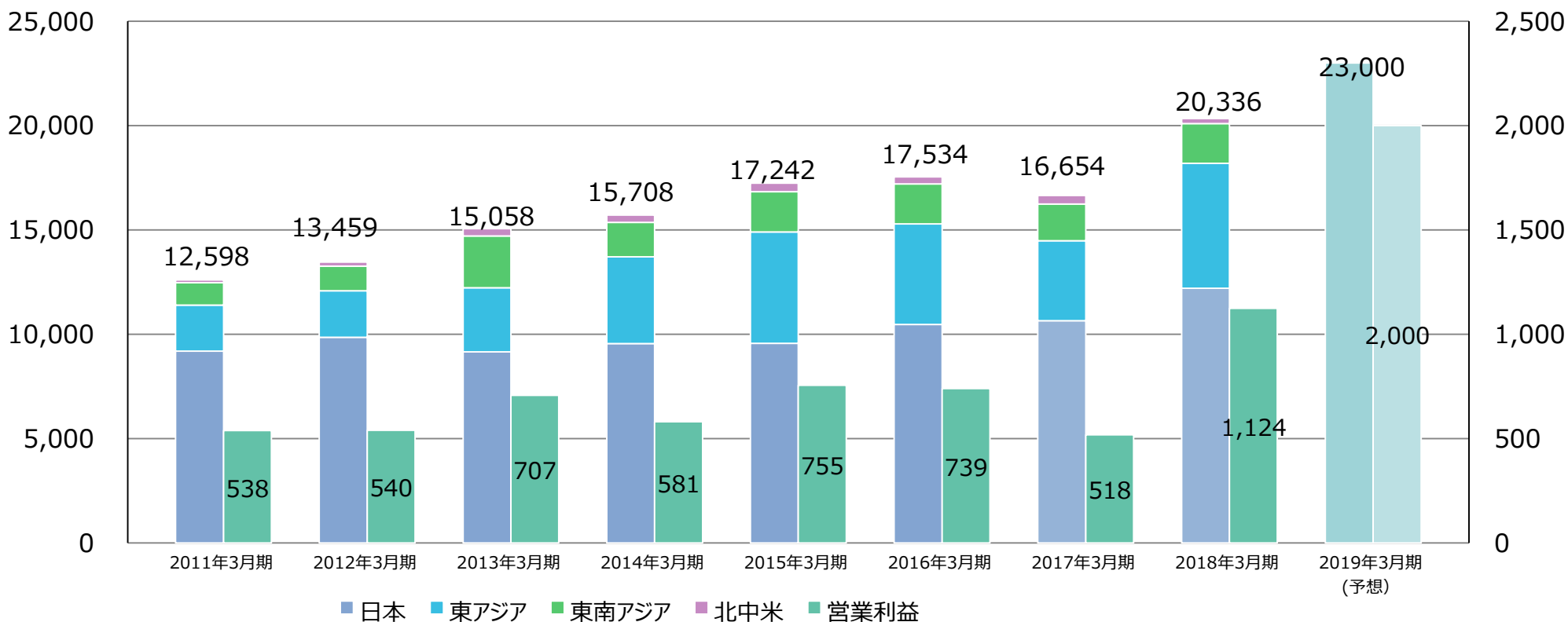
連結売上高  
23,000百万円  
(前期比 +13.1%)

営業利益  
2,000百万円  
(前期比 +77.8%)

- 日本、東アジアは、自動車関連、電子部品関連を中心に引き続き堅調に推移
- フィリピン、ベトナムは好調を維持、インドネシア、タイも回復傾向、北中米は体制の再構築による改善を見込む
- 運賃等の増加および海外における人件費等の増加はあるものの、売上高増加に伴う売上総利益の増加により、営業増益を見込む

(売上高)

(営業利益)



### 3. 2019年3月期業績予想

## ② 連結業績予想の修正

- 好調な業績推移を踏まえ、10月26日付で通期連結業績予想を上方修正
- 通期では、売上高230億円、営業利益20億円を見込む

(注) 2019年3月期の計画数字は5月発表時のものです

(単位：百万円、%)

	計画
	2019年3月期
	金額
売上高	21,000
営業利益	1,250
経常利益	1,150
親会社株主に帰属する 当期純利益	800

業績予想（修正）		
2019年3月期		
金額	期初予想比	
	増減額	増減率
<b>23,000</b>	2,000	9.5
<b>2,000</b>	750	60.0
<b>2,000</b>	850	73.9
<b>1,450</b>	650	81.3

### 3. 2019年3月期業績予想

## ③損益計算書（P/L）予想（連結）

（単位：百万円、％）

	2018年3月期			2019年3月期（通期） （予想）			コメント
	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	
売上高	20,336	100.0	22.1	23,000	100.0	13.1	■ 米中貿易摩擦、為替変動リスク等の不透明部分はあるもの、各セグメントとも引続き堅調な推移
売上総利益	6,038	29.7	23.5	7,091	30.8	17.4	■ 売上増加に伴う製造固定費単価の低下 ■ 受注時の利益率向上
販売費及び一般管理費	4,914	24.2	12.4	5,092	22.1	3.6	■ 国内、海外共に人件費は増加を見込む
営業利益	1,124	5.5	117.1	2,000	8.7	77.8	
経常利益	1,029	5.1	131.1	2,000	8.7	94.3	
（親会社） 当期純利益	909	4.5	330.4	1,450	6.3	59.4	■ 2018/3期:単年度の特殊要因230（回収可能額増加に伴う繰延税金資産の計上）
減価償却費	302	—	6.6	310	—	2.6	
設備投資額	267	—	▲43.2	300	—	12.0	■ 生産設備、販促用資産の更新や整備を見込む



### 3. 2019年3月期業績予想

## ④セグメント別売上高（連結）

（単位：百万円、％）

（売上高）

	2018年3月期（通期）			2019年3月期 （通期）（予想）			コメント
	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	
日本	13,145	60.1	14.6	14,500	58.0	10.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車、食品容器、物流、建築土木関連業界等、さまざまな分野で設備投資が好調を維持</li> </ul>
東アジア	6,441	29.4	52.9	7,800	31.2	21.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国における電気自動車（EV）向け電池や、スマホ、車載用カメラレンズ等、光学部品関連業界の設備投資が活況</li> </ul>
東南アジア	2,044	9.3	11.6	2,400	9.6	17.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィリピン、ベトナムにおける日系企業の設備投資が好調を維持</li> <li>インドネシア、タイは自動車関連業界を中心として緩やかではあるが回復基調にあり</li> </ul>
北中米	266	1.2	▲36.8	300	1.2	12.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車関連業界を中心に需要の増加を期待</li> </ul>

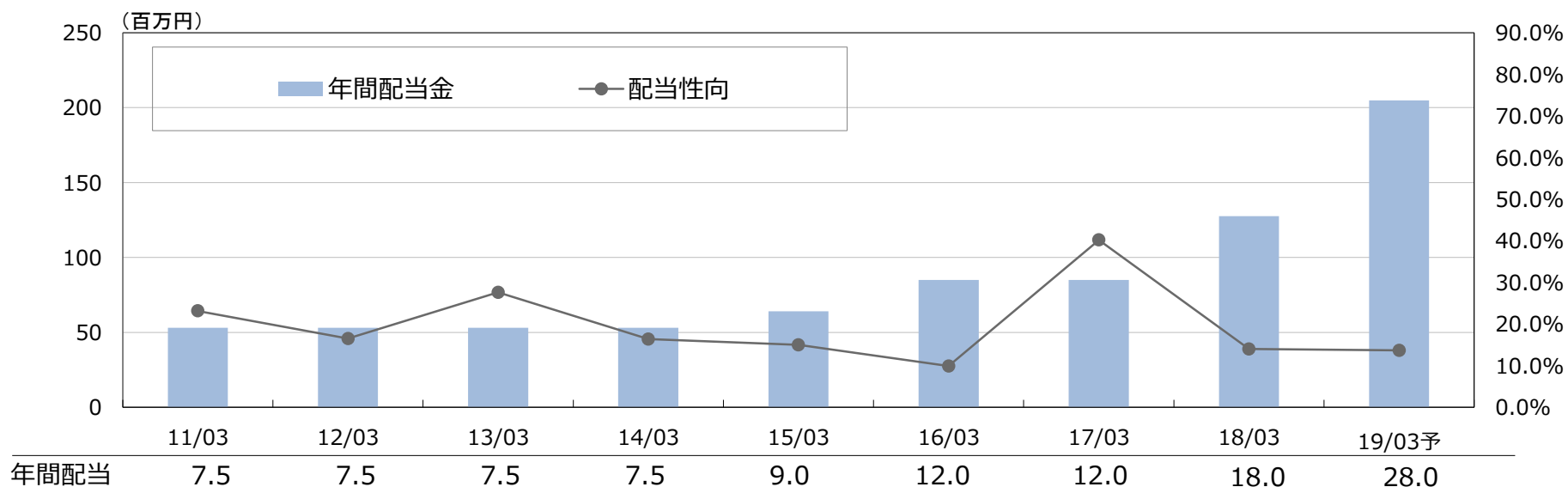
（注）構成比は連結調整額を除いて算出

# 4. 配当政策

## 配当性向推移

### 配当方針

当社は従来の安定的な配当維持に加え、業績に連動した株主の皆様への還元を経営の重要政策のひとつとして位置づけております。また、中長期的には安定した事業成長を図り株主価値を持続的に向上させるため、業績の進展状況等を勘案し、新規事業開発や戦略投資等に内部留保資金を投下してまいります



### 株主優待

基準日	保有株式数	優待内容
3月31日	100株以上	QUOカード 500円相当分 (追加導入)
	500株以上1,000株未満	1,000円相当の優待品、社会貢献活動団体への寄付
	1,000株以上	1,500円相当の優待品、社会貢献活動団体への寄付
9月30日	100株以上	QUOカード 500円相当分 (追加導入)



## Ⅲ. 経営戦略



# 1.経営理念・中期経営戦略

3ゲン主義を基本姿勢とし、従業員満足度と株主価値を向上しながら、  
グループの総合力を持って業界NO.1メーカーを目指します



## 中期経営戦略

### 新規市場への販売の拡大と 既存市場での利益率向上

- 日本での新規分野や高機能化対応
- 中国N E Vの拡大対応
- 東南アジア販売拡大/Q.C.D向上
- 北中米市場販売拡大
- サービス体制の強化/CSの向上

### マーケットニーズへの対応

- 新素材への対応
- 自動車用部品/IT関連機器市場への対応
- 環境負荷低減、省エネ・省人化対応製品開発
- 顧客生産性向上に貢献
- 業界、地域ニーズへの対応

### 経営基盤の強化

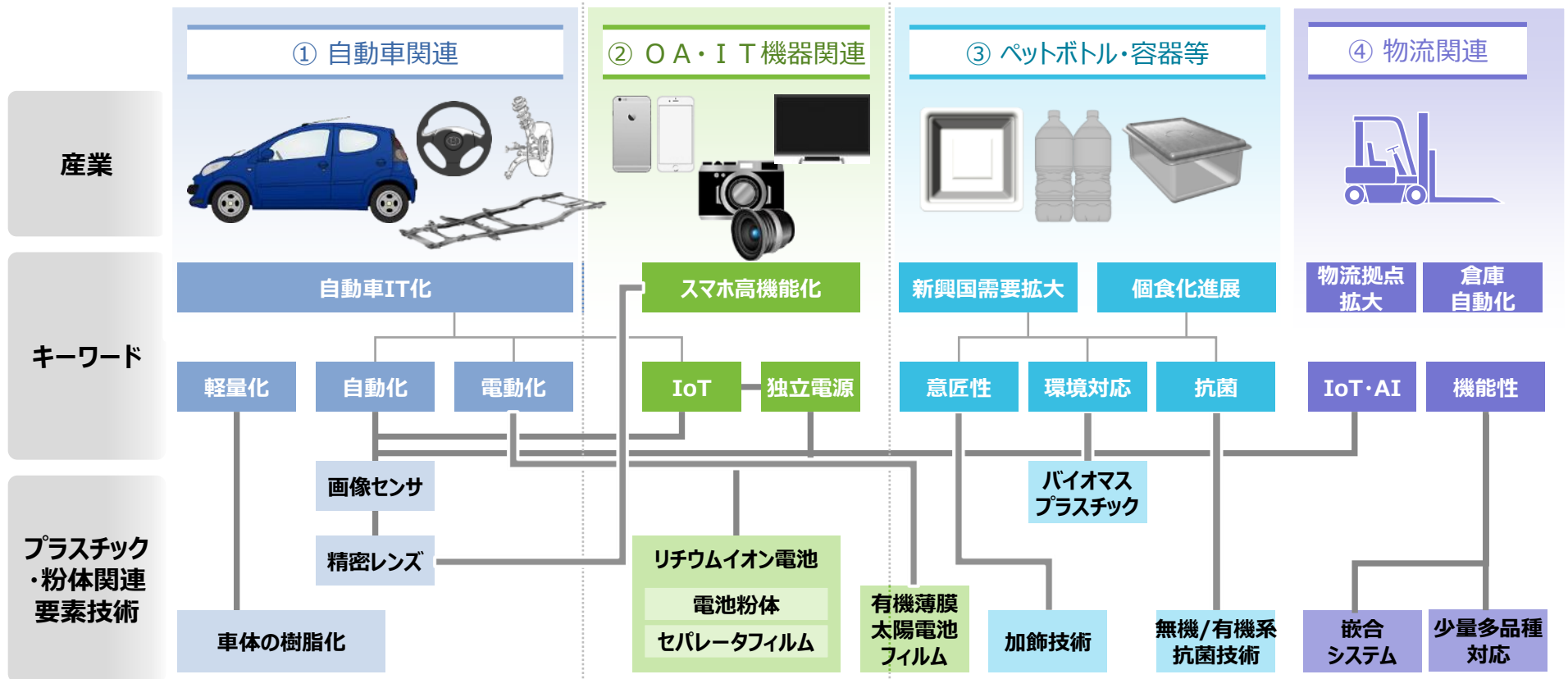
- 人材のレベルUPによる企業力の向上
- ROE8%以上 総還元性向25%以上
- コンプライアンス意識徹底
- コーポレートガバナンスの実現

## 2. 事業環境

# (1) プラスチック産業の動向

- 自動車関連・IT機器関連中心の技術革新・市場拡大に伴う、プラスチック部品・粉体の高品質化・高機能化への対応
- 周辺機器においては成形機器・素材の技術革新と連動した高機能性に加え省エネ、低コストが要求される
- 新たな要素技術への対応については、既存技術・製品にとらわれない上流～下流までを踏まえたシステム構築が必須

各産業の技術革新・市場拡大と対応するプラスチック・粉体の要素技術



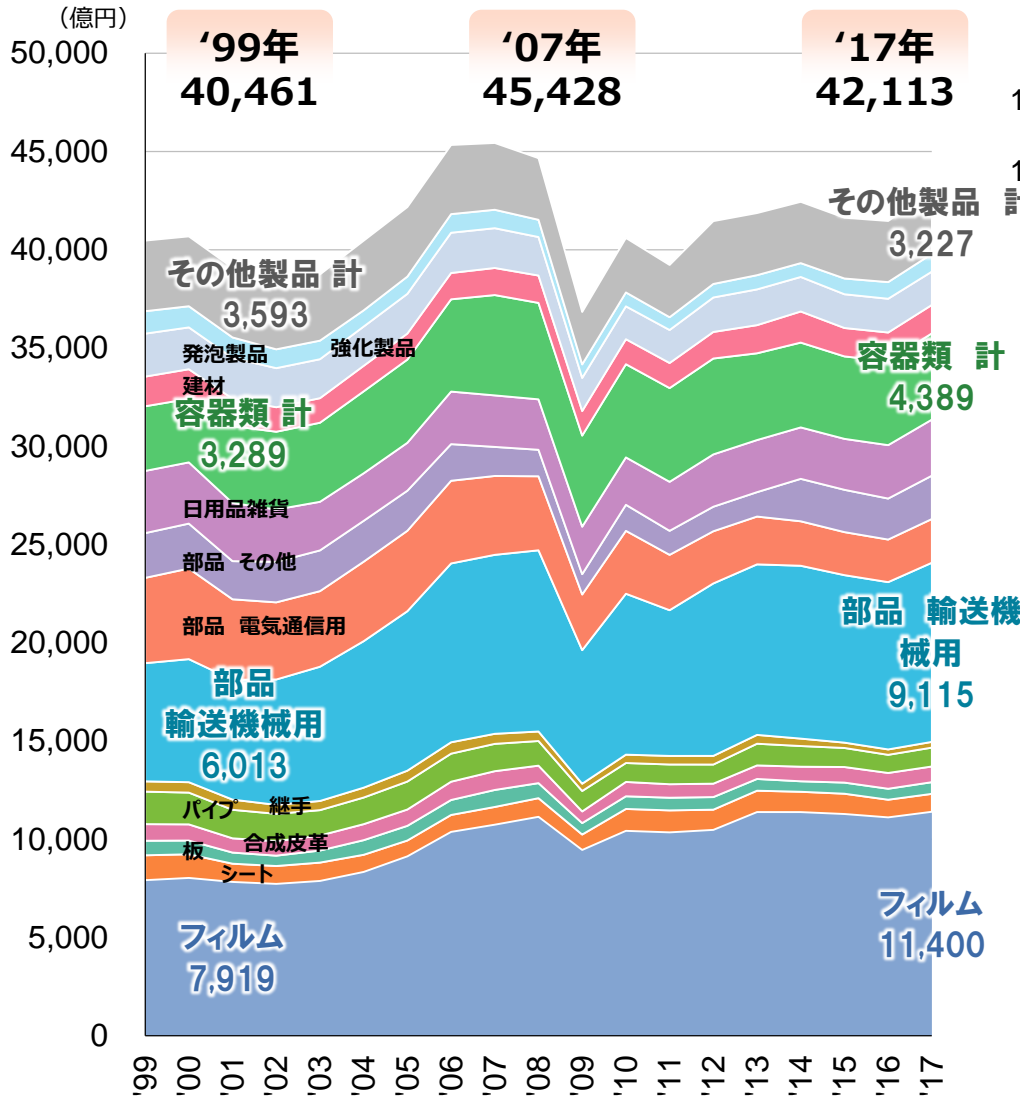
既存の技術や製品にとらわれることのない新技術への対応が課題

素材・成形機・周辺機器各メーカー協働による上流～下流までを踏まえたシステム提案の必要性

## 2. 事業環境

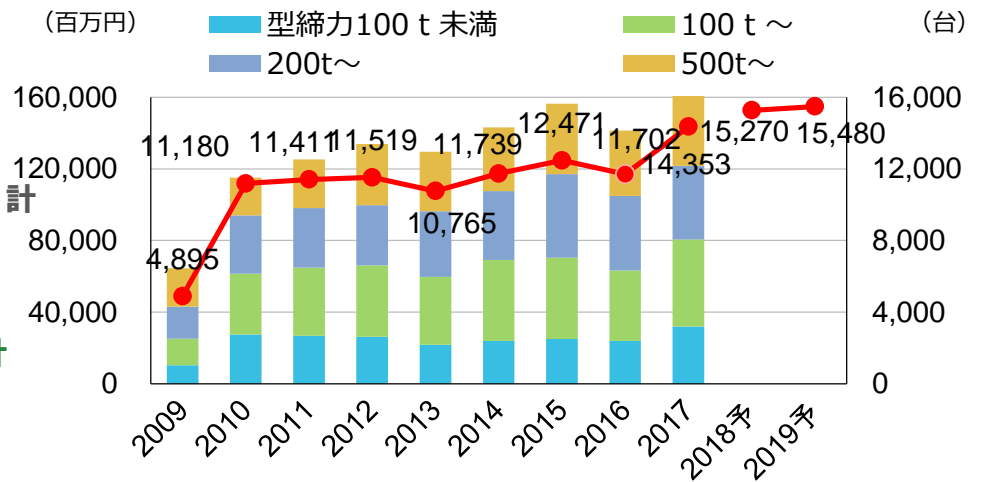
# (2) プラスチック製品・成形機の生産動向

1999年～2017年 国内プラスチック製品販売実績



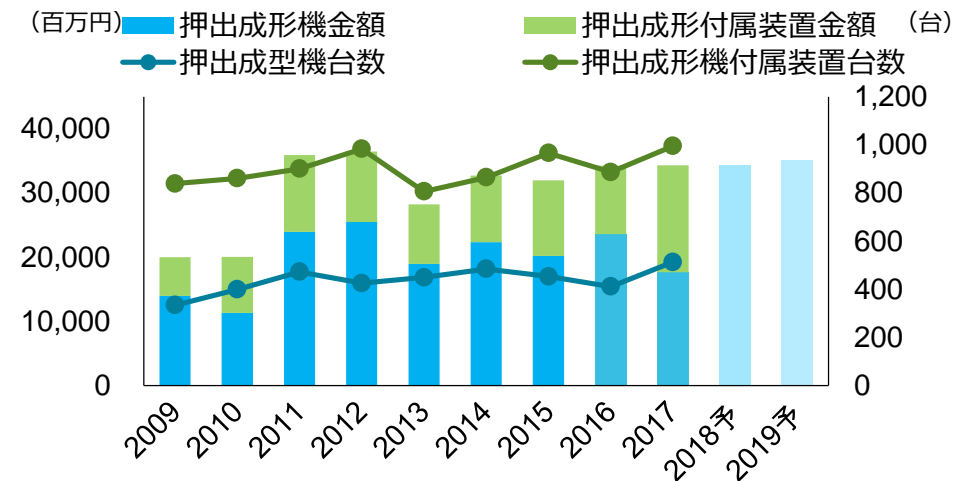
出所：日本プラスチック工業連盟資料

射出成形機生産金額・台数推移



出所：経済産業省 機械統計・生産動態統計（実績） 日本産業機械工業会（予測）  
注）2017年迄実績については生産台数実績、2018年以降は出荷台数予測

押出成形機生産金額・台数推移



出所：経済産業省 機械統計・生産動態統計（実績）  
注）2017年迄実績については生産金額実績、2018年以降は当社需要予測

## 2. 事業環境

### (3) 各エリア プラスチック・粉体関連機器需要動向

- 日本国内は自動車、電子部品に加えて、食品容器、物流、建築土木等、様々な分野で堅調
- 中国は電気自動車（EV）向け電池、スマホや車載用カメラレンズ等、光学系部品関連の需要が堅調
- 東南アジア及び北中米は自動車関連業界を中心に設備投資意欲が堅調

#### 東アジア

- 中国における電気自動車（EV）向けの電池、自動車関連、スマホや車載用カメラレンズ等、光学系部品関連の需要が堅調に推移

#### 日本

- 日本国内は、自動車、電子部品に加えて、食品容器、物流、建築土木関連等、様々な分野で投資案件が増加
- 世界各国でのリチウムイオン電池需要急拡大に対応し、セパレータフィルム向け熱媒体循環温度調節の需要が急増
- IoT設備投資に関連する画像センサーなどへの設備投資の動きに注目

#### 東南アジア

- インドネシアでは停滞していた自動車販売台数が回復基調
- タイは、国王の崩御から一年がたち、自動車販売が回復基調
- ベトナム、フィリピンは依然として、高い製造業の成長率を維持

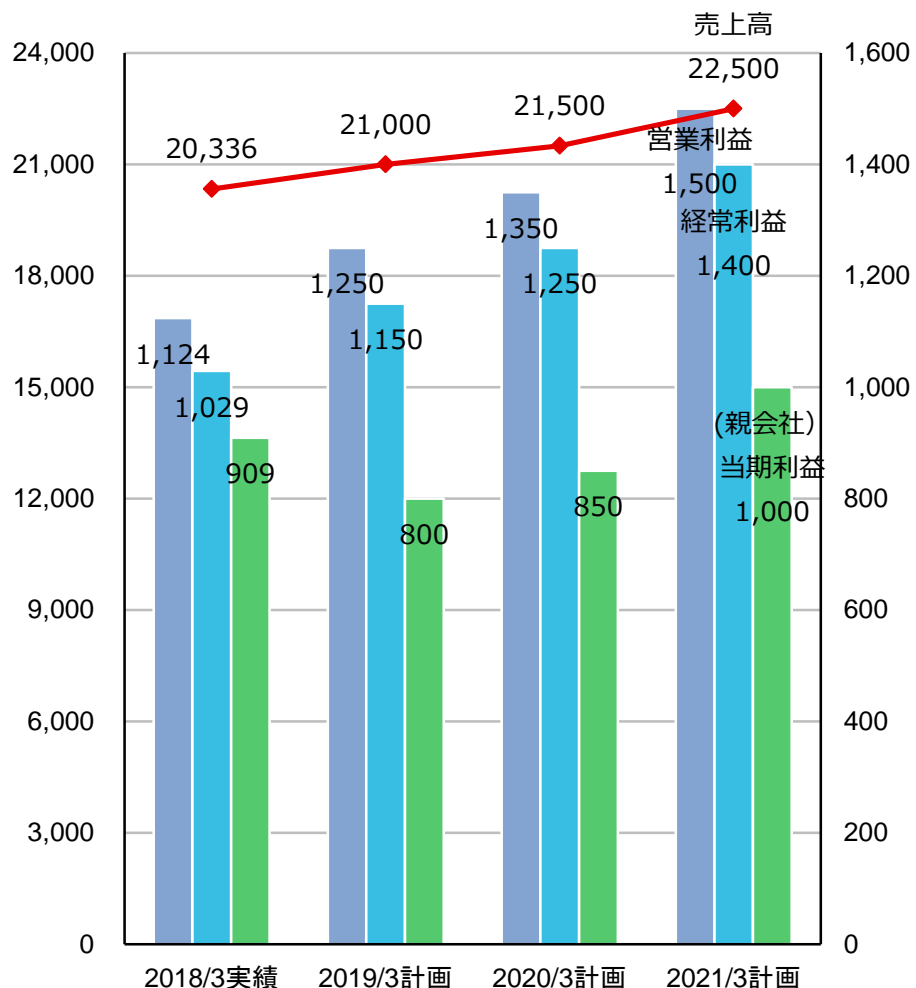
#### 北中米

- アメリカ経済が堅調に推移する中、北中米における自動車関連業界の設備投資案件が増加、メキシコにおいても自動車を中心とした日系企業の投資意欲も堅調に推移

# 3. 中期経営計画 取組状況

## 売上高、利益目標

(単位：百万円)



営業利益率	2018/3実績	2019/3計画	2020/3計画	2021/3計画
	5.5%	6.9%	6.3%	6.7%

(注) 計画値は2018年5月発表時点のものです

## 各セグメント毎戦略

### 日本



- 新規分野や高品質化、高機能化への対応、売上・利益は漸増見込み
- － 環境負荷低減、省エネ、省人化対応製品の開発
- － 技術革新、AI、自動化に伴うプラスチック成形部品
- － NEV（新エネルギー車）の伸長に伴う軽量化や電動化の需要に向けての新素材の展開や対応

### 東アジア



- NEVの拡大、IoTへの取組みによる更なる売上、利益の拡大を見込む
- － 中国工場の生産能力や設備活用、マーケットシェアの拡大
- － LIBを含む自動車部品市場へのアプローチ
- － 内需拡大政策やAI、IoT対応

### 東南アジア



- 日系企業、現地企業の投資拡大の取込み、安定的な黒字化を見込む
- － 生産能力/生産効率の向上による、原価低減、獲得付加価値拡大
- － 現地調達推進のための設計変更を進め、原価低減と市場拡大を図る
- － 新規市場（食品用包装資材・容器、ボトル等）へのアプローチを図る

### 北中米



- メキシコ、米国の需要開拓・拡大を実施し、黒字展開を図る
- － 自動車関連業界を最重要ターゲット業界と位置付け、同市場のマーケットシェアの拡大を図る
- － 新規市場（OA機器、精密機器、医療用品等）へのアプローチ
- － サービス体制確立、CSを高め、マーケットシェア拡大を図る

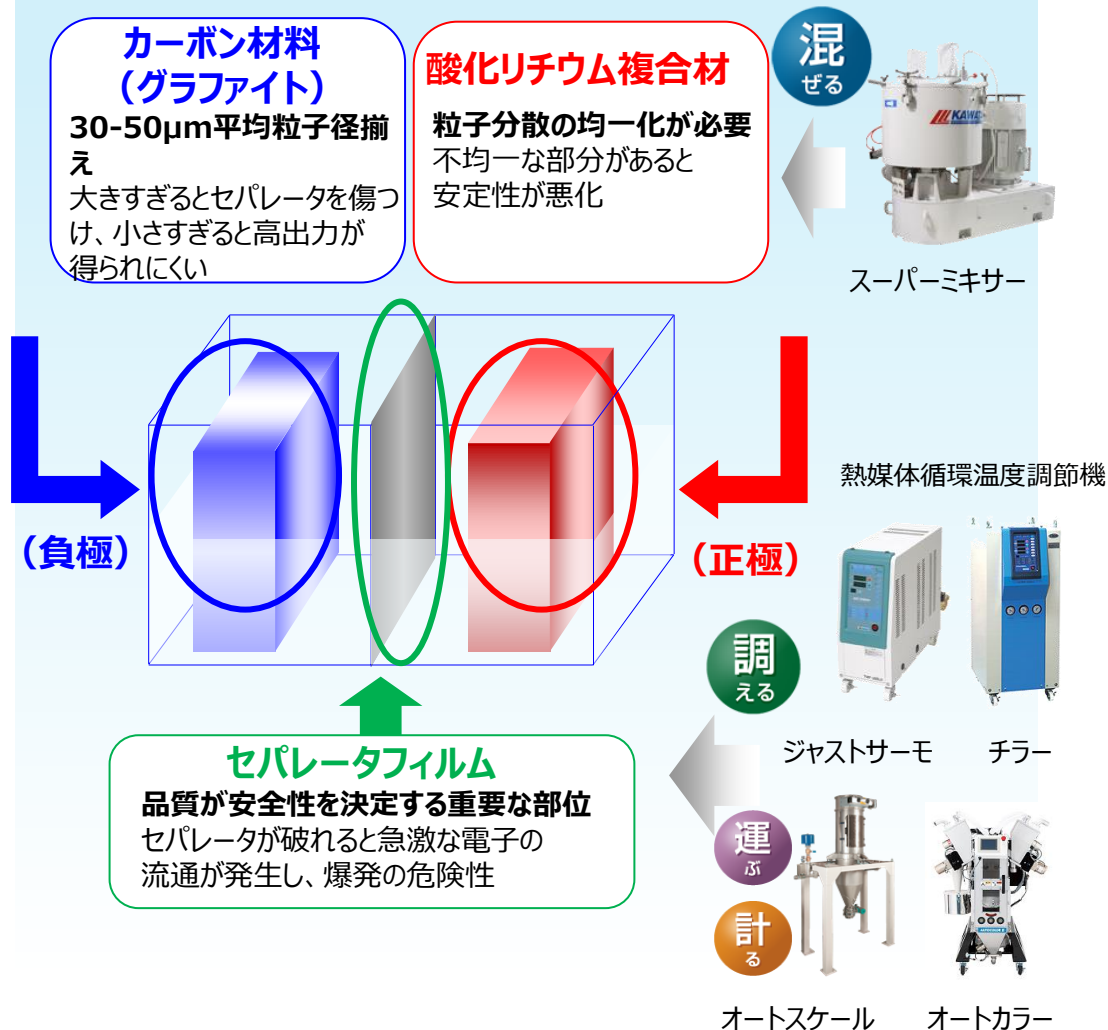


#### 4. 経営戦略トピックス

### (1) EV/リチウムイオン電池市場への対応

- 安全なリチウムイオン電池の製造には高度な粉体混合技術/高品質フィルム製造技術が不可欠
- 中国をはじめ世界各国でのリチウムイオン電池需要急拡大に対応し、スーパーミキサーおよびセパレータフィルム向け熱媒体循環温度調節機の需要が急増、日本及び中国の各製造拠点にて対応

#### リチウムイオン電池の構造と生産に必要な要素技術

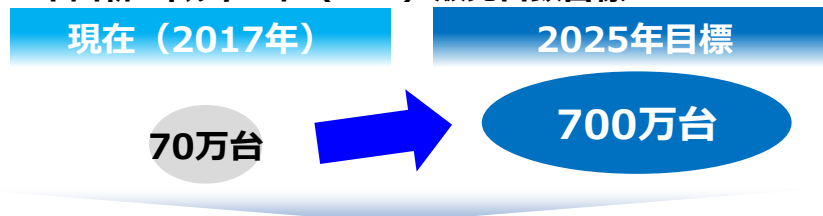


#### 中国国内リチウムイオン電池部材市場対応

- 環境対策としての**新エネルギー車**（PHV、EV車）の市場拡大が中国政府の国家政策として推進
- 今後ガソリン車の禁止の導入時期を検討等一層の踏み込み



#### 中国新エネルギー車（NEV）販売台数目標



#### リチウムイオン電池の需要拡大への生産対応

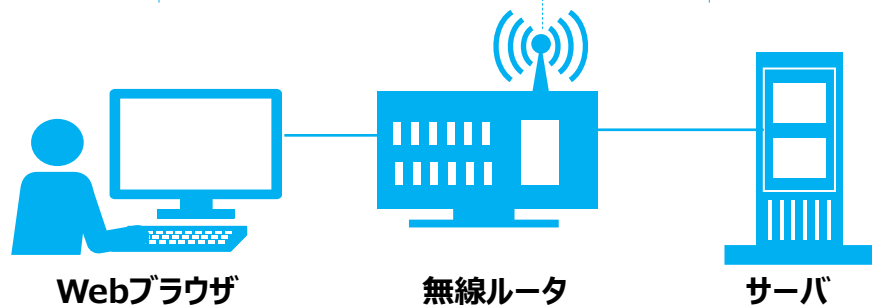
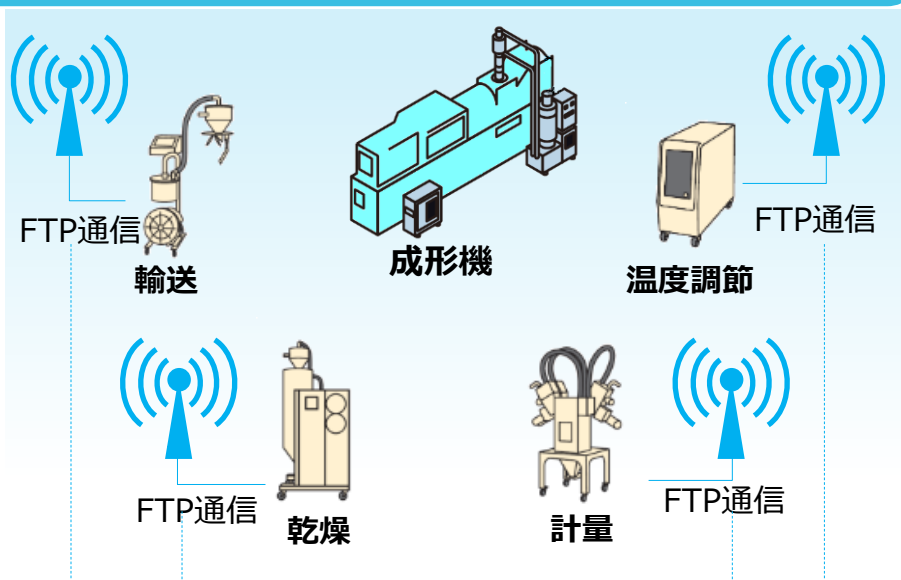
- 世界の中でNo1シェアの中国リチウムイオン電池部材市場に対し、スーパーミキサーを始めとする粉体用機器の製造ラインを充実、拡販を目指す
- 2018年1~6月度累計 Lib向けスーパーミキサー販売台数 : 前年同期比 146.5%増
- 2018年1~6月度累計 中国粉体関連事業（含むリチウムイオン電池）受注高 : 前年同期比 167.5%増
- セパレータフィルム製造用の熱媒体循環温度調節機は 国内工場から中国への輸出で対応

#### 4. 経営戦略トピックス

## (2) IoT生産への取り組み

- 近年の生産現場の課題である①省力化②技術伝承のIT化③省エネ化への対応のため、成形機周辺機器へのデータ通信対応を推進
- 新たなセンシング技術を搭載した乾燥監視システムを実用化

### 成形機周辺機器データ通信対応

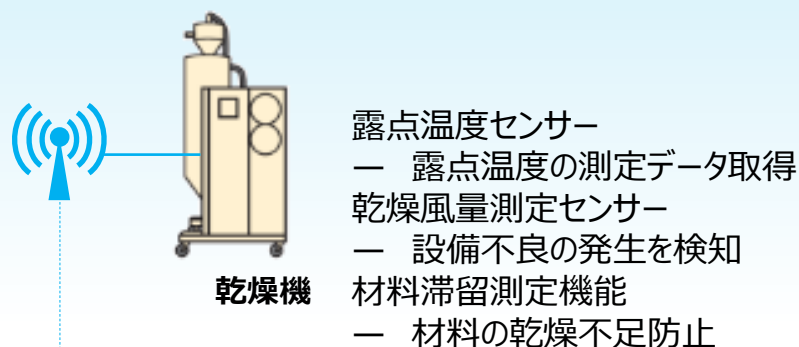


- データを閲覧
- 保存されたデータを分析
- 生産ライン保全に活用

- Web/データベースサーバの機能
- データリスト表示
- 過去データの抽出

### 乾燥監視システム

- 従来の乾燥期に監視センサを追加、より詳細な運転情報や材料状態を監視し収集



メンテナンス通知画面



モニタ画面

## 4. 経営戦略トピックス

# (3) 新素材・新技術へのアプローチ

- 各業界のニーズに対応し、最適な用途に基づき、最適な製品を提供

### 自動車関連

- 精確な質量計測と乾燥精度の要求と省エネ対応

質量計量混合機  
ACA-Z b シリーズ



- 材料使い切りモードでロス低減
- 計量データを保持

脱湿乾燥機  
DFB シリーズ



- 豊富なラインナップ
- 汎用性No.1ながらも特殊仕様にも対応

脱湿乾燥機  
DRC シリーズ



- 省エネ、省スペースを追求した脱湿乾燥機

### 高精度レンズ（スマホ・車載・画像センサー）

- 高性能・最先端材料への対応が必要なラインへの提供

熱媒体温度調節機  
（金型温度調節機）  
TWF-HHDNa シリーズ



- 水媒体での高温制御によりクリーン環境に対応

窒素乾燥機  
（連続式）  
DO シリーズ



- 窒素乾燥により材料の酸化劣化を防止

### リチウムイオン電池

- 高精度の分量配合と混合精度への対応

粉粒体輸送計量機  
オートスケール



- 粉体材料の計量・供給の自動化

高速流動混合機  
S M シリーズ



- 高速流動により高い混合性能

### 容器・ペットボトル関連

- クリーン技術を活用した大量・多品種生産への対応

DFB シリーズ  
〈自動節電オプション〉



- 生産能力の変動に対し自動で乾燥能力を適性に制御

貯蔵サイロ



- 大能力生産に対応する原料の受け入れ装置

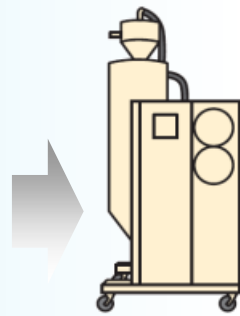
## 4. 経営戦略トピックス

# (4) 環境への対応

- カワタ製品開発指針Challenge CESにより省エネ・省スペース製品へ長らく取組
- バイオプラスチック等環境対応製品に対応する新素材に係る新たな製造技術について素材メーカーとの連携や日本バイオプラスチック協会JBPA加入、リサイクル技術関連の情報を収集

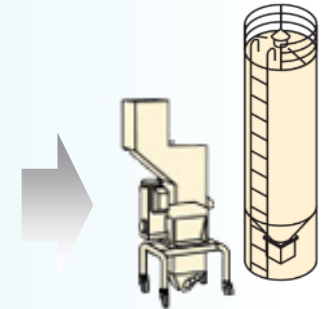
### 環境対応素材への対応

- バイオエンプラ（植物由来樹脂）  
⇒車の外装
- 生分解性樹脂  
⇒農業用フィルム(地中有機分解)
- VOC対策技術



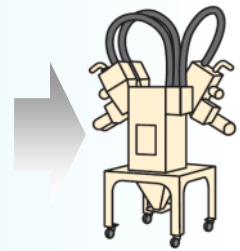
乾燥機

- PETボトル  
⇒マテリアルリサイクル  
ペットボトル用ペレットとして再生利用
- 食品容器用PETシート  
⇒PET材料リサイクル



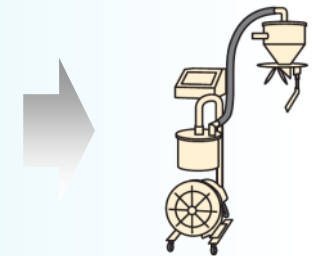
ペレット  
再生設備

- 車載用塗装レス設備  
— 光沢や金属のような質感を追加の加工や塗装なしで実現する樹脂素材  
— 塗装レス樹脂の部品は射出成形だけで造れるため製造コストを大幅に削減できる。加工の作業負担や塗装工程に不可欠な揮発性有機化合物（VOC）とも無縁



計量混合機

- 多層バリアフィルム  
— 食品包装分野では、SAVE FOODの面でロングライフ化が要求されてきており、各種のバリア性能が求められる。医薬品、化粧品 その他の分野でもバリア性は要求される



輸送・計量機



# Appendix. I

事業構成（単体）

事業ネットワーク

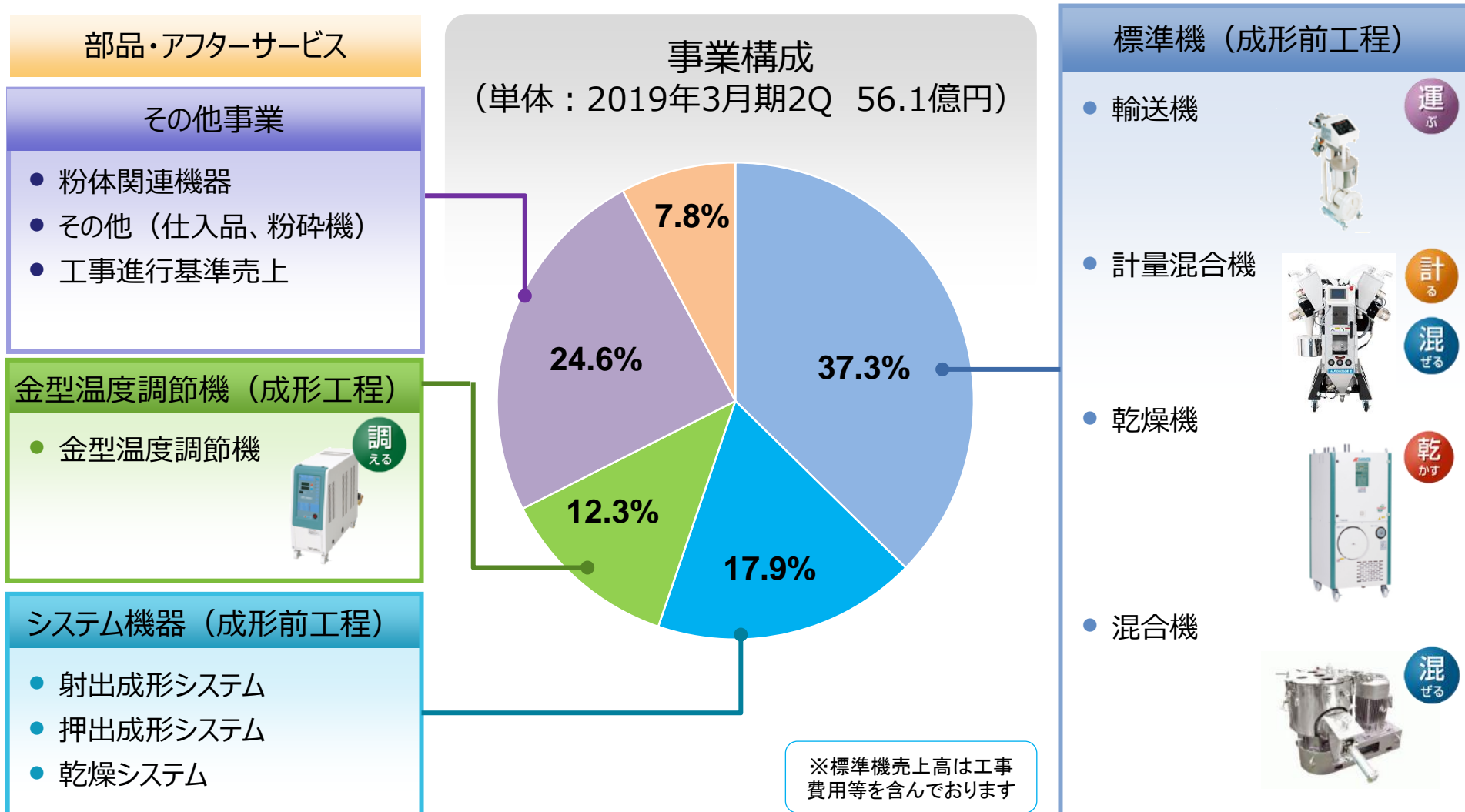
技術の沿革

技術力の特徴



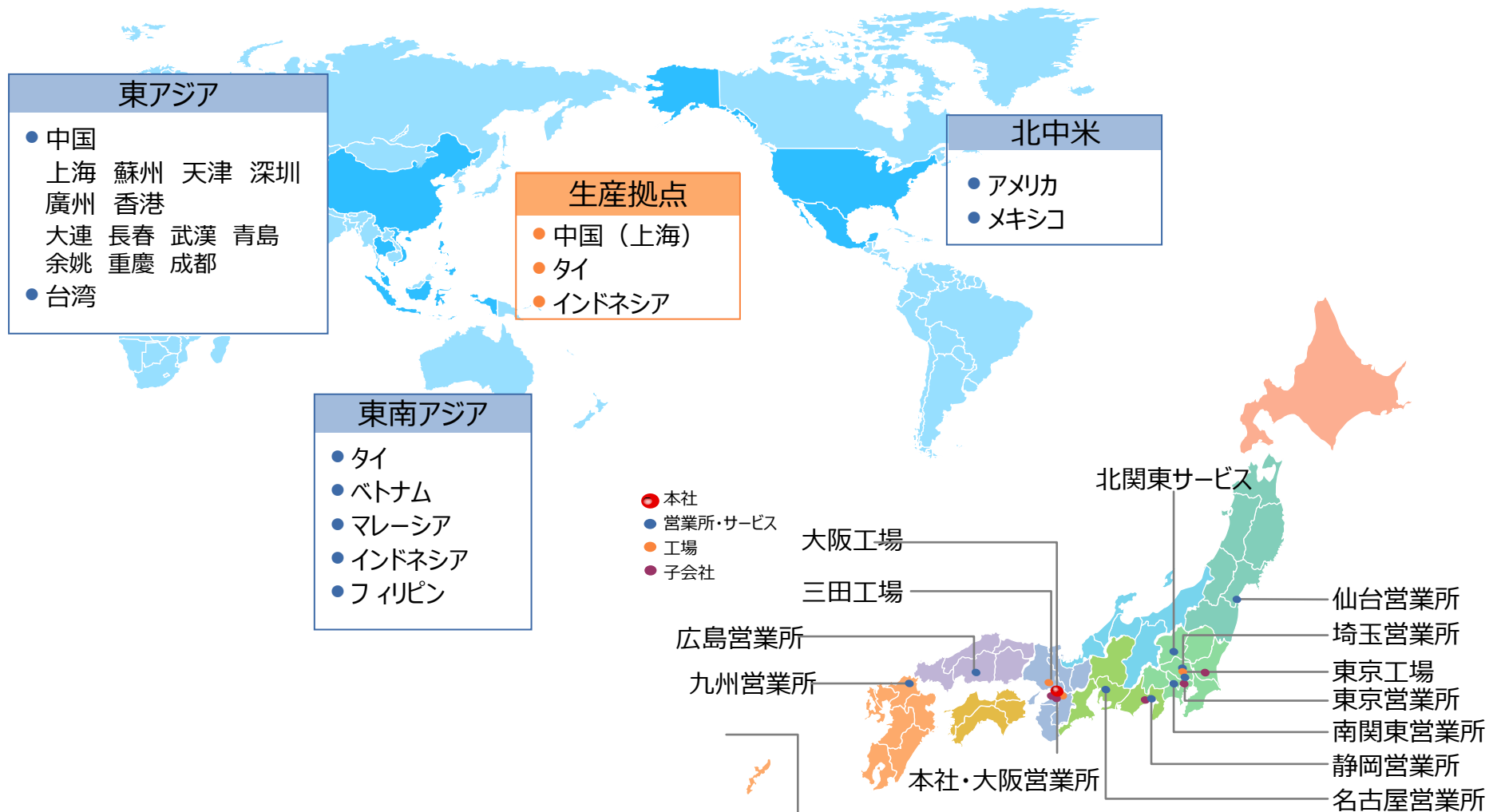
# 事業構成（単体）

- プラスチック成形合理化機器関連事業、輸送・計量・乾燥・混合がコア技術
- コア技術を有機的に組合せた独自のハンドリングによるシステム装置が主力

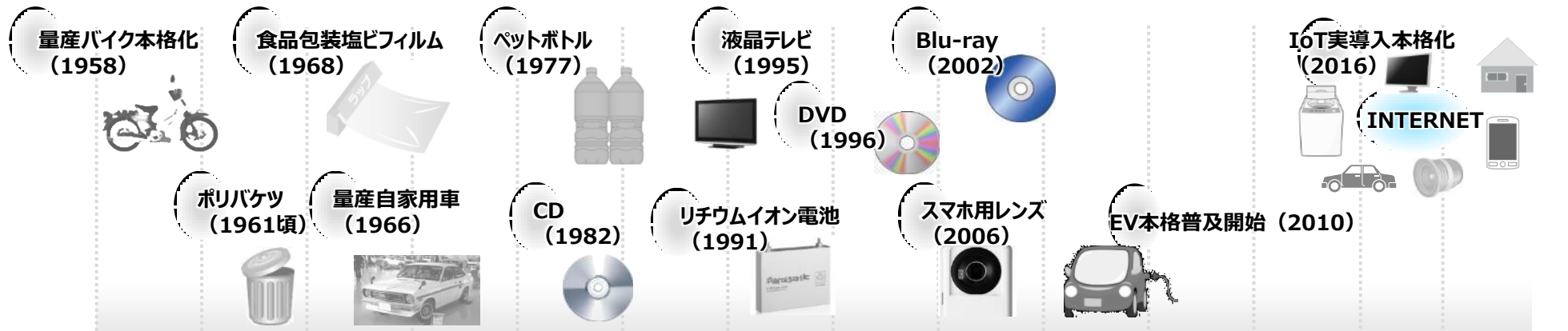


# 事業ネットワーク（国内・海外）

- 国内に11のカワタ営業所・サービス拠点／大阪・三田に生産工場を配置／国内子会社4社（東京1社、茨城1社、静岡1社、大阪1社）
- 東アジア・東南アジア・北中アメリカに販売・製造ネットワークを展開・強化



# 技術の沿革



創業	1935	1951	1962	1970	1973	1983	1987	1996	2002	2012	2013	2014	2015	2016	2017
			<p><b>混ぜる</b></p> <p>■ 高速流動混合機 (スーパーミキサー) 開発</p>		<p><b>乾かす</b></p> <p>■ 西独社と脱湿型乾燥機 (チャレンジャー) の技術提携、生産開始</p>			<p><b>乾かす</b></p> <p>■ チャレンジャー特許確立。CD成形用樹脂乾燥システム</p>		<p><b>計る</b></p> <p>■ 連続粉体供給装置 (ウイングスケーラー) を開発</p>			<p><b>乾かす</b></p> <p>■ 脱湿乾燥機 DFBシリーズ開発</p>		
			<p><b>運ぶ</b></p> <p>■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案</p>						<p><b>乾かす</b></p> <p>■ DVD成形対応材料輸送乾燥供給システム開発</p>	<p><b>運ぶ</b></p> <p>■ 高効率乾式分散混合機 (ナノパージョン) を開発</p>		<p><b>混ぜる</b></p> <p>■ 窒素乾燥機 DO開発</p>		<p><b>乾かす</b></p> <p>■ 窒素乾燥機 DT-60Z 開発</p>	
			<p><b>計る</b></p> <p>■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発</p>		<p><b>調える</b></p> <p>■ サーモテック金型温調機生産開始</p>				<p><b>乾かす</b></p> <p>■ 超小型真空式乾燥機 (デコ) を開発</p>			<p><b>計る</b></p> <p>■ 超省スペース計量混合機 LC-50を開発</p>	<p><b>混ぜる</b></p>	<p><b>乾かす</b></p>	



# 技術力の特徴・業界シェア・順位

- 国内プラスチック製造装置合理化システムにおける技術の優位性・特許取得は主要製品におけるトップシェア確保を可能に

## 液晶画面関連（フィルム、シート）等

- 液晶画面の大型化、多機能化に伴い、高品質光学フィルム需要の伸長下、**クリーン技術**を駆使
- 材料の貯蔵から輸送、除粉、乾燥までトータルな成形支援システムを提供

保有特許8件/  
出願中4件



## レンズ関連（携帯電話関連レンズ等）

- 窒素乾燥技術**を中心に、酸化防止や安定した水分率管理ができる**乾燥システムおよび高精度な金型温度調節機**を提供
- 不良率の低減と高品質製品の生産に貢献

保有関連特許14件  
出願中4件



## ペットボトル関連（ペットボトル等）

- 豊富な乾燥ノウハウと革新的な発想に基づき、**樹脂の加水分解・酸化劣化を抑制**
- 必要最小限のエネルギーで効率的な乾燥を実現

保有特許1件



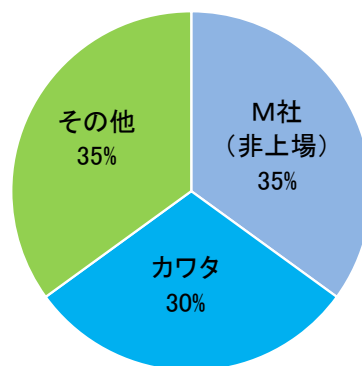
## プリンター関連（カラートナー等）

- 半世紀以上も前に生産を開始したヒート商品スーパーミキサーをはじめ、当社の**粉体貯蔵、輸送、高精度計量、高分散混合技術**は、お客様の粉体関連事業をサポート

保有関連特許13件  
出願中5件



## 当社コアビジネス国内業界シェア （売上合計300億円）



## 自動車関連（ハンドル・バンパー、部品等）

- ヒット商品の計量混合機オートカラーや脱湿乾燥機DFAなど、充実した**省エネ・省力化機器**をラインアップ
- 自動車関連成形業界の生産性の向上に貢献

保有特許23件  
出願中5件





## Appendix. II 決算データ補足



# 1. 2019年3月期第2四半期決算実績

## ①損益計算書（P/L）（単体）

（単位：百万円、％）

	実績						コメント
	2018年3月期第2四半期			2019年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
売上高	4,485	100.0	12.3	5,616	100.0	25.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内製造業の設備投資が回復基調</li> <li>海外向けの電子部品関連の輸出案件も好調</li> </ul>
売上総利益	786	17.5	▲7.3	1,189	21.2	51.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品生産時の数的優位性、生産性の効率化、製造工程での原価低減による</li> </ul>
販売費及び一般管理費	754	16.8	1.4	824	14.7	9.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上高増加に伴う運賃等の変動費、人件費等の増加</li> </ul>
営業利益	31	0.7	▲69.4	365	6.5	1,047.8	
経常利益	39	0.9	▲83.5	485	8.6	1,134.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>受取配当金 32→52</li> <li>為替差益 4→36</li> </ul>
当期純利益	24	0.5	▲91.3	381	6.8	1,458.5	
減価償却費	43	-	8.4	42	-	▲2.1	
設備投資額	39	-	▲8.8	37	-	▲4.7	

# 1. 2019年3月期第2四半期決算実績

## ②製品別売上高（単体）

（単位：百万円、％）

（売上高）

	実績						コメント
	2018年3月期第2四半期			2018年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
標準機	1,445	32.2	0.9	2,096	37.3	45.0	■ 自動車、電子部品関連業界を中心とした需要の増加
システム	531	11.9	▲54.0	1,006	17.9	89.3	■ フィルム・シート、食品容器関連を中心とした需要の増加
金型温度調節機	689	15.4	34.5	690	12.3	0.1	
その他	1,818	40.5	104.1	1,822	32.5	0.3	
合計	4,485	100.0	12.3	5,616	100.0	25.2	

※標準機売上高は工事費用等を含んでおります

# 1. 2019年3月期第2四半期決算実績

## ③販売先別売上高（単体）

（単位：百万円、％）

	実績						コメント
	2018年3月期第2四半期			2019年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
自動車部品	980	21.9	2.7	1,339	23.9	36.5	■ 自動車関連業界の需要が堅調に推移
OA・家電・精密機器	397	8.9	▲18.8	504	9.0	27.0	■ 電子部品関連業界の需要が堅調に推移
レンズ	339	7.6	68.8	496	8.8	46.1	■ 東アジア（中国、台湾）向けレンズ関連業界からの受注増
フィルム・シート	358	8.0	▲41.0	408	7.3	14.0	■ フィルム・シート関連業界からの受注増
ホース・パイプ	68	1.5	▲4.1	262	4.7	283.9	■ ホース・パイプ関連業界の需要が堅調に推移
ペレット・原料	122	2.7	34.2	245	4.4	101.3	■ ペレット・原料関連業界の需要が堅調に推移
非プラ	142	3.2	101.9	230	4.1	61.2	
容器	173	3.9	▲46.0	210	3.7	21.1	■ 容器関連業界の需要が堅調に推移
日用雑貨	179	4.0	▲2.5	177	3.2	▲1.1	
医療	118	2.6	12.3	151	2.7	28.5	
その他	1603	35.7	79.4	1,588	28.2	▲0.9	

## 2. 2019年3月期業績予想 損益計算書（P/L）予想（単体）

（単位：百万円、％）

	2018年3月期（通期）			2019年3月期（通期） （予想）			コメント
	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	
売上高	9,801	100.0	19.1	11,000	100.0	12.2	■ 自動車関連、電子部品関連の受注は引続き堅調
売上総利益	1,819	18.6	8.9	2,265	20.6	24.5	■ 受注時の利益率確保による売上総利益率の一層の向上
販売費及び一般管理費	1,565	16.0	8.3	1,665	15.1	6.3	■ 売上高増加に伴う運賃等の変動費、人件費等の増加
営業利益	253	2.6	12.5	600	5.5	136.3	
経常利益	321	3.3	▲14.8	700	6.4	117.9	
当期純利益	492	5.0	25.5	550	5.0	11.7	■ 2018/3期:単年度の特殊要因230（回収可能額増加に伴う繰延税金資産の計上）
減価償却費	91	－	5.7	90	－	▲1.8	
設備投資額	70	－	▲14.7	80	－	13.2	

# 本日はありがとうございました

## 粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話：06-6531-8211

e-mail：ir6292@kawata.cc

### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。  
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。  
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。  
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。